

七 中国をめぐる列国との関係

1 英国との関係

984

昭和11年1月20日

在漢口三浦総領事より
広田外務大臣宛(電報)

英國による対中借款は当面実現の可能性がな
いとのリース・ロス観測について

漢 口 1月20日後発
本 省 1月21日前着

第三號
往電第九號ニ關シ

(一)「リースロス」ハ二十日飛行機ニテ重慶ニ向ヒタルカ十
八日「リ」ハ支那人記者ニ與ヘタル「ステートメント」
内ニ於テ英國國民ハ支那ニ於ケル過去ノ借款ノ元利ノ支
拂ヲモ受ケ居ラサルヲ以テ今後當分支那ニ於テ投資スル
ノ可能性ナシ英國ハ支那ノ產業及貿易發展ノ爲財政的援
助ヲ與ヘント欲スルモ支那ハ先ツ以テ一般的ニ國家ヲ安

定シ平和ト秩序ヲ恢復セサルヘカラス外國資本カ再ヒ支
那ニ投入セラル爲ニハ少クトモ今後十年ヲ要スヘク而
シテ此ノ投資ハ支那ノ交通ノ發展ニ使用スルヲ最適當ト
スヘシト述ヘタリ

(二)右ニ對シ十九日ノ新民報ハ支那ノ社會ノ安定及經濟界ノ
恢復ハ支那人力舉國一致積極的ニ努力スルニ於テハ十年
ヲ出テス五年或ハ三年ヲ以テシテモ可能ナルヘク又借款
カ政治的色彩ヲ有シ債務國ノ主權ニ影響ヲ及ホスモノハ
惡意ノ經濟侵略ニシテ善意ノ經濟援助ニアラス而シテ從
來各國カ支那ニ對シテ爲セル投資ハ果シテ如何ト論シ又
同日ノ大公報ハ支那ハ從來全般的帝國主義ノ國際殖民地
分割ノ網ニ陷リタルモノナルカ最近歐米各國ハ其ノ在支
利益カ事實上極東ノ新興帝國主義ノ權威ニ獨占セラル
危機ニ瀕スルモ武力ヲ以テ制止スル能ハサルニ依リ經濟
的手段ヲ以テ市場ノ均衡ヲ争ヒ或種ノ損失ヲ補償セサル
ヲ得サルモノナリ「リ」ノ所謂支那ノ社會秩序ノ安定ニ

國ヨリ借款ヲ得ントスルモノナリヤ、或ハ「クレデット」
ヲ欲スルモノナリヤ、又ハ商品ヲ賣込マント欲スルモノナ
リヤノ質問ニ對シ全部之ヲ否定シタ、然シ之ト同時ニ本協
定ノ附帶加條項トシテ

一、南京政府ハ一九三六年度内ニ二千六百萬米弗ニ相當スル
銀ヲ米國ヘ輸送スルコト

二、全中國銀行ノ兌換券ノ統制ニ努メ關稅收入以外ノ財政ノ
統制ヲ計ルコト

一、米國顧問ノ指導ノ下ニ中國貿易ノ統制ヲ行フコト

一、南京政府ハ米國ヨリ鐵道、船舶、トラクター工業用機械、

飛行機、石油等ヲ購入スヘキコト
即チ銀賣却以外ニ軍需品ノ購入ノ約定迄含マレ居レリト傳
ヘラレ居ル。

而シテ
右銀協定成立セル一九三六年五月以降現在迄米國カ支那ニ
對シ購入シタル總額ハ約三億「オンス」余ニシテ右一「オ
ンス」ノ建値ハ大体四十五仙ヲ以テシタルモ客年十二月ニ
成立セル第四回目ノ協定ニ於テハ四十三仙ニ低下セル由ナ
リ。

~~~~~

付テハ支那官吏ノ外植民地の利益ヲ爭奪セル帝國主義者モ亦其ノ咎ヲ免ルルヲ得スト論シ何レモ相當ノ嫌味ヲ述ヘ居レリ御参考迄

前電ノ通り轉電轉報セリ  
支ヨリ上海へ轉報アリタシ

前電ノ通り上海へ轉報アリタシ

(1)尤モ幣制改革自身未タ第一段ニ過キス支那ノ經濟恢復ノ爲ニハ更ニ豫算ノ均衡、銀行組織ノ改革等ノ重要ナル各種ノ措置ヲ必要トスル處豫算ノ如キ均衡所ニアラサル實情ハ何人モ承知シ居ルニ拘ラス支那側ハ何事ニ依ラス必

要ニ迫ラレサレハ實行セス困ツタモノナリ

(2)外ナキモ之ニハ支那ハ所謂面子ニテ反對スヘク更ニ舊債

ヲ整理セサレハ新投資ヲ爲ス者ナク新投資ニ依リ營業及

機材ノ改善ヲ爲ササレハ舊債ヲ整理スヘキ收入ヲ舉クル

能ハスト云フ「ビンアス、サークル」ニ直面ス債權者代

表等トモ協議シ交渉セシメ居ルモ舊債整理モ進展セス結

局支那鐵道ノ現狀ニテハ之ニ對スル投資モ覺束ナカルヘシ

985 昭和11年1月23日 在中國有吉大使より  
広田外務大臣宛(電報)

幣制改革は一定の成功を収めたが債務整理が

進展しなければ中國鐵道への投資は困難であるとのホール・パッチ内話について

本省 1月23日夜着 上海 1月23日夜發

二十三日「ホール・パッチ」ノ館員ニ内話セル所左ノ通

(1)幣制改革ハ未タ第一歩ヲ踏出シタルニ過キサルカ米國ノ氣紛レナル政策ニ左右セラル銀市價ノ變動ヨリ支那通貨ヲ解放シ且通貨力「オーバー、バリュー」セラレタル結果ノ「デフレーション」的傾向ヲ矯正スル意味ニテハ

第四六號(極秘)

ノ邊今少シ確乎タル政策ヲ立ツル必要アリ云々<sup>(1)</sup>  
北平、南京、天津へ轉電セリ

986 昭和11年2月3日 在中國有吉大使より  
広田外務大臣宛(電報)

付記 昭和十一年三月十日付、東亞局第一課作成  
〔支那ヲ中心トスル日英協調問題〕

中国税関制度保全や対中債権整理などでの日英提携につき協議方在中国英國商務參事官提議について

〔コンプレーン〕アリ出發ノ際商務省ヨリ調査ヲ依頼セラレタリ)在支英國外交官憲カ數年來頗ル「ウイーグ」ニアリ且支那問題ハ萬事事勿レ主義ニ出テ居ルハ事實ニシテ「リースロス」カ調查ヲ終ヘテ歸國セハ其ノ報告ニ基キ何トカ政策ヲ確立スル必要アリ

(2)支那ノ行政機構等カ改善セラルニハ數十年ヲ要スヘク夫迄ハ支那人ニ委セテハ支那ノ改善ヲ所期シ得サルコト勿論ニ付鐵道ノ如キモ有效ナル監督ヲ要スヘク鹽務ノ如キハ既ニ破壊シ盡サレタルモ海關丈ハ何トカ之ヲ維持シ出來得レハ昔ノ如キ獨立性ヲ恢復セシメ過去及將來ノ投

資ヲ保障スルト共ニ貿易ノ破壊ヲ防止セサルヘカラス此

第六九號 昭和九年南京發賣大臣宛電報第四四一號ニ關シ

一年半振ニテ去ル二十日歸來セル英國商務參事官カ二日及三日會見セル須磨ニ内話セル所左ノ通滯英中「ハモンド」、「リースロス」ノ渡支ニ付立案シタルカ實ハ兩人ノ「ミッショソ」トモ唯日本側ヲ刺戟セルニ止マリ殊ニ幣制改革ノ如キ「ヤング」即チ米國側トノ關係コ

ソアレ英國トシテ關知セサル所ナルニ是迄引合ニ出サレタ

ルハ遺憾ニシテ爲ニ倫敦ニテハ相當失望ノ空氣アリ自分ノ

來任ト共ニ日本側ト具体的ナル對支共同工作(mutual dealing)ノ案ヲ立ツル様命セラレタルカ何レ近日赴寧シ

「カドガン」大使トモ協議ノ上貴官ト御相談致度キ所存ナ

リ要ハ日本ハ滿洲事變以來「エキスパンション」ノ途上ニ

アルハ之ヲ認ムルモ其ノ限界ヲ英國カ求メントシツツアル

在支英國權益ノ現狀維持ヲ侵害セサル程度ニ止ムル案ニシ

テ例ヘハ海關制度、關稅率、債務整理等ニ付右ノ趣旨ニテ

日本ノ持前タル正義觀念ニ訴ヘ共同工作ノ限界ヲ定メ度キ

考ナリ云々

南京、北平、天津ヘ轉電シ上海ヘ轉報セリ

編注『日本外交文書』昭和期II第一部第三卷第345文書。た

だし、内容的には同年四月十日発在南京須磨總領事より広田外務大臣宛電報第三三四号(右第三卷第336文書)

を引用したものと思われる。

## (付記)

### 支那ヲ中心トスル日英協調問題

(一)、(三)、(一〇)、東亞局(一課)

「左記ハ松平大使歸朝ノ機會ニ重光次官以下外務省幹部前後三回會合討議ノ結果ニ依リ對支政策運

用ノ参考トシテ取り纏メタルモノナリ」

#### (一) 帝國ノ東亞政策ト歐米ノ認識

我對外政策ノ根本ハ曩ニ三省話合ニ依ルモ明ナル通り、

帝國ヲ中心トスル日滿支三國ノ提携共助ニ依リ東亞ノ安

定ヲ確保シ其ノ發展ヲ計ルニ在リ。從テ支那ニ於ケル帝國ノ

指導的立場ヲ強化スルニ努ムヘキハ當然ニシテ其ノ結果

支那ニ於ケル英國其他歐米ノ勢力ノ漸次減退スヘキハ自

然ノ歸結ナリトス。殊ニ帝國國力ノ發展目醒シキ現狀ニ

於テ、支那ニ對シテハ地理的民族的ニ優越ナル地位ヲ占

ムル帝國カ、經濟的將又政治的ニ駿々トシテ支那ニ伸展

スルハ極メテ自然ノ數ニシテ、歐米各國トシテハ右帝國

發展ノ大勢ハ之ヲ阻止シ得サルモノナルコトヲ認識スル

必要アリ。從來歐米各國ハ國際會議若ハ國際條約等ノ集

團的壓力ニ依リ帝國ノ對支發展ヲ阻止センコトヲ企圖シ

タルモ帝國ハ右歐米ノ集團的壓迫方法カ不當ニ帝國ノ自由ナル發展ヲ拘束スルモノナリトシ斷然斯ノ種鎖範ヲ切斷スルノ決意ノ下ニ國際聯盟ヲ脫退シテ以來華府、倫敦兩軍縮條約ノ如キ集團的羈絆ヲモ断チ九國條約ノ如キ同種ノ拘束ヲモ少クモ事實上否認スルノ立場ヲ取り來レルノミナラス、將來ニ於ケル帝國ノ自由ナル立場ヲ拘束スルカ如キ新ナル訂約、或ハ國際會議乃至國際條約ノ如キ苟モ帝國ニ對スル集團的壓力ノ形成ニハ斷乎反對スルノ態度ヲ堅持シ來レリ

歐米各國カ世界各地ニ廣大ナル植民地ト豐富ナル天然資源トヲ有シ東亞民族ニ對シテハ此等門戶ヲ嚴重閉鎖シツツ進テ東亞ニ於テモ同様ノ植民地觀念ヨリ歐米ノミ利益ヲ<sup>(註カ)</sup>壟斷セントノ策ヲ樹テ地理的其他ノ關係ヨリ支那ニ於テハ帝國トノ自由競爭ニ堪エ得サル弱身ヲ「カバー」センカ爲ニハ支那ニ關スル各種國際條約ヲ訂立シ門戶開放機會均等等ノ美名ノ下ニ帝國ノ自由ナル發展ヲ拘束シ來レル歐米從來ノ遣り方ニ對シ帝國ノ最近ニ於ケル國力ノ發展ハ之ヲ許容シ得サル狀勢トナレル事實ニ顧ミ、前記

帝國ノ態度ハ誠ニ自然ノ歸趨ナリ。歐米カ右帝國ノ態度

#### (二) 英國トノ協調問題

日英兩國ハ舊同盟國トシテ傳統的國交關係アルノミナラ

ス國際的ニモ最モ有力ナル存在ニシテ而モ帝國トノ關係最モ密接ナルヲ以テ前記新ナル基礎ニ則シ兩國間ノ傳統的國交ノ維持増進ヲ計ルハ帝國トシテ最モ希望スル所ナリ。依テ我方トシテ先ツ努ムヘキハ英國ヲシテ前記東亞ニ於ケル新事態ヲ確認セシムルニ在リ。即チ支那ニ於テ指導的立場ヲ取ラントシ若ハ九國條約ノ如キ帝國ノ自然的發展ヲ拘束スル國際取極ヲ復活セントスルカ如キハ新事態ニ逆行スルモノナル次第ヲ明確ニ覺ラシメ、結局在支權益ノ自然的衰退ハ已ムヲ得ストスルモ、セメテ帝國ト協調スルコトニ依リ日本側及支那側ヨリ來ル不當ナル壓迫ニ基ク權益ノ喪失ハ之ヲ喰ヒ止メ度シトノ心境ニ迄追ヒ込ム必要アリ、英國ニシテ一應右心境ニ到達シ始メテ日英協調ノ基調ヲ見出シ得ル次第ナリ

然ラハ支那ヲ中心トスル日英協調ノ方法如何

(イ) 支那ニ於ケル日英兩國利害關係事項ニ關シ事實上我方ヨリ出來得ル限り協調的態度ニ出て事實ニ依リ我方ノ

日英關係調整ニ關スル誠意ヲ示シ英國側ニ安心ヲ與フルコト

右ハ後掲(ロ)日英親善關係增進ニ關スル「メッセージ」

邦側ノ氣持ヲ一新スルト共ニ稍々モスレハ抬頭シ勝ナル英米連合シテ帝國ニ當ルヘシトノ風説ヲ解消スルニ役立ツヘク、旁々適當ノ機會ヲ捉ヘ右聲明ヲ實行スルコトハ差支ナカルヘント認メラル。但シ右聲明ノミヲ以テシテハ所期ノ目的ヲ達スルコト困難ナルヲ以テ更ニ前記(イ)ノ措置ニ依リ實質ヲ伴ハシムル要アルト共ニ、聲明實行迄ニハ軍部其他ノ方面ノ諒解ヲ取付クルコト最モ肝要ナリ)

尙右聲明ニ關聯シ北支方面ハ滿洲國ニ隣接シ日滿兩國トノ關係特ニ重大ナルヲ以テ兩國トハ特殊ノ關係ヲ設定スル必要アルモ帝國ハ中南支方面ニ迄特殊關係ニ引入ルルノ意向ナキ旨必要ニ應シ説明シ得ルニ於テハ英國側ニ相當ノ安心ヲ與ヘ得ヘシ(右ノ如キ言明ヲナスコトニハ軍側ニ於テ相當難色アルヘキモ後掲(三)對蘇聯準備ノ見地ヨリ軍側ヲ說得シ得サルニ非サルヘシ)

(ハ) 前記(ロ)ノ範圍ヲ一層擴張シ日英間ニ利害關係アル事項

ニ亘ル問題又ハ支那ニ於ケル利害關係ニ限定ス)旨聲明若ハ協定ス。(世界全般ニ亘リ兩國ノ利害關係アル

交換若ハ聲明ト關連シテ實行スル場合及關連セシメス單獨ニ實行スル場合トアルヘシ

(英國トノ國交増進ハ結局ニ於テ英國ノ在支權益保持現行支那海關制度ノ保持(B)對支借款(C)債務整理問題等ニ付帝國ト協調方申出來レル經緯アリ、依テ今後ハ出メラル處英國側トシテハ(A)英國人ヲ總稅務司トスル現行支那海關制度ノ保持(B)對支借款(C)債務整理問題等ニ付帝國ト協調方申出來レル經緒アリ、依テ今後ハ出來得限リ日英協調ノ容易ナル問題ヲ取り出シ順次我方ヨリ積極的ニ英國側ト協調方持チ掛け右ニ依リ事實上帝國カ英國ト協調スルノ態度ヲ示スコトニ依リ英國側ノ恆憂ヲ緩和スルニ資ス)

(ロ) 廣田「ハル」「メッセージ」ノ例ニ做ヒ若クハ其他ノ形式ニ依リ(共同聲明、公文交換等)兩國間傳統的親善關係ノ增進ニ關スル双方ノ誠意ヲ聲明ス

(右聲明ハ近時兩國間ニ繙ル重苦シキ感情ヲ一掃シ兩國關係ノ明朗化ヲ所期スル次第ナルカ實利的ナル英國力實質的利益ノ伴ハサルスカル聲明ノミニテ幾何ノ満足ヲ表スヘキヤ疑ナキ能ハサルト共ニ米國邊リノ感情ヲ刺戟スル虞ナシトセサルモ、同時ニ斯カル聲明ハ本

事項ニ付相互ニ協議スルコトトスルモ實質的ニハ支那ニ於ケル利害關係ノ調節問題カ主トナルヘキ處北支内蒙方面ニ於ケル事項ニ迄英國側ヨリ情報ヲ求メラレ若クハ協議方申出ラルルコトハ我方ノ迷惑トスル所ナルヲ以テ右懸念ヲ解消シ得ル成案ナキ限り本案ノ採用ハ考ヘ物ナリ)

### (三) 軍側指導方法

帝國カ前記(一)國際的拘束ヲ排除シ帝國獨自ノ東亞政策遂行ニ邁進スルノ態度ヲ明ニシテヨリ軍側ニ於テハ功ヲ急ク余リ、過度ニ歐米ノ在支權益挑撃ニ熱中シ、却テ大局ヲ誤ル虞ナシトセス、右ニ對シテハ差シ當リ帝國ノ外交施策ヲ對蘇聯問題中心ニ考慮シ、東亞政策ノ遂行ニ當リテモ不必要ニ歐米ノ反感ヲ挑發シ蘇聯ノ味方タラシムルハ策ノ得タルモノニ非ストノ趣旨ヲ以テ軍側ノ自重ヲ促スコト然ルヘシ。

~~~~~

987 昭和11年4月4日 在中國若杉臨時代理大使より
有田外務大臣宛(電報)

カドガン英國大使が中国から帰国の途上日本

を訪問し有田外相との面談希望について

上 海 4月4日後発
本省 4月4日夜着

第二四〇號

本官本四日「カドガン」ヲ訪問シタル處同氏ハ家族同伴明五日當地出發「エンプレス、オヴ、カナダ」號ニテ歸國ノ途次神戸ニ上陸京都、奈良地方觀光ノ上東京ニ赴キ一日滯在ノ筈ニ付其ノ際閣下ニモ面會ノ機ヲ得ヘク又在東京英國大使ニ於テ同氏招待ノ午餐ノ際本邦有力者トモ會談ノ機會ヲ得ヘキヲ期待シ居ル旨語リタルニ付本官ヨリ閣下御離任前同氏ト會見ノ餘裕ナカリシヲ遺憾トセラレ居タルコト並ニ同氏今回外務ノ要職ニ就カルルニ當リ是非トモ東亞ニ於ケル日本ノ立場ヲ充分理解セシメ置クコト有益ナルヘク同氏今回ノ渡日時日餘リニ短キハ遺憾ナルモ此ノ機會ニ於テ

啻ニ最近ニ於ケル日本ノ物質的進歩ノミナラストニ精神的方面ニ於テ我國民カ東亞ノ安定勢力トシテ極東ノ平和確保ニ眞剣ナル決意ヲ有シ居ル次第ヲ充分認識セラレントコトヲ

希望スル旨述ヘタル處同氏ハ之ヲ首肯シ閣下御出發前武藤書記官ヲシテ傳達セシメラレタル御厚意ニ對シ謝意ヲ表シ

尙「カドガン」ヨリ我大使館事務所南京移轉ニ付質問アリタルヲ以テ當方ノ建前ヲ然ルヘク説明シ尙北平大使館ハ條約上ノ關係上依然トシテ現在ノ地位ヲ維持スル建前ナル旨ヲ述ヘタル處「カ」ハ北支ニ於ケル日本ノ外交カ勳モスレハ軍人ニ依リ行ハレ居ルヲ以テ北平ニ外交官ヲ充實スルノ必要アルヘシト皮肉ヲ述ヘ本官ヨリ英國大使館ノ處置ニ關スル方針ヲ尋ネタル處「カ」ハ英國トシテハ今直ニ北平大使館ヲ南京ニ移轉スルコトハ費用其ノ他ノ關係モアリ關係題ナルヲ以テ差當リ南京事務所ノ擴大ニ止メ居ル次第ナルモ本件ハ早晚(成ルヘク速ニ)南京移轉方攻究スル筈ナルカ義和團議定書調印國トノ關係及駐兵權等ノ關係モアリ關係諸國ト協議ヲ行フ積リナリト答ヘタリ

北平、南京へ轉電セリ

988 昭和11年4月(6)日 在中國若杉臨時代理大使より
有田外務大臣宛電報

離任に当たりカドガン大使が発表した新聞談話について

上 海 発
本省 4月6日夜着

第二四五號

往電第二四〇號ニ關シ

「カドガン」ハ四日夜新聞記者ニ大要左ノ如ク語リタル趣ナリ

一、英支間ノ重要問題ハ不平等條約改訂ト雲南緬甸國境問題ナルカ前者ニ付テハ英國ハ機會到來セハ直ニ改修スルニ
吝ナラサルモノナリ後者ハ順調ニ進行中ニテ圓滿解決スルモノト信ス

一、英國ノ對支態度ハ啻ニ日本トノナラス許サル限り如何ナル國家トモ協調セント欲スルモノナリ

一、英國ノ對支投資ハ主トシテ上海及長江一帶ニ爲サレ居リ特ニ上海ニ最重キヲ置クモノニシテ其ノ利益ハ始終擁護ス

一、華北密輸問題ハ重要關係アルモノトシテ英國ハ注視シ居レリ

一、自分今回歸國ノ途次日本ニ立寄ルモ滯在僅二日ニシテ普通一般ノ挨拶ノミニテ如何ナル問題モ談スル暇ナカルス

一、英國ハ上海及東京ノ大使館内ニ財政顧問ヲ置クコトニ決シ曰下上海ニアル「ホールパツチ」ヲ任命スルコトニ内定シ居レリ其ノ性質ハ現ニ華府、柏林ニアル財政顧問ト同質ノモノニシテ自分在任中財政技術問題ニ關シ輔佐員ノ必要ヲ痛感セリ

一、英國ノ滿洲國承認問題ニ對スル態度ニ關シテハ從來ト不變ナリトノミニシテ語ルヲ避ケタリ

一、英國ノ北支ニ於ケル權益問題ニ付テハ今回日本通過ノ際ハ談及スルヲ欲セス倫敦ニ於テ論議スヘキ問題ナリ

一、米國ノ華北駐屯軍撤退ノコトハ未タ聞カス英國ハ現在撤退ノ準備ナシ若シ必要アル際ハ各國同一步調ヲ採ルヘク單獨ニ之ヲ行フコトナカルヘシ

一、廣九、粵漢兩鐵道接軌問題ニ對シテハ最近兩國間ニ何等ノ談合ナシ

一、英國ノ對支借款ハ倫敦方面ノ投資家ノ態度ト支那ノ擔保品ノ性質ニ依リ決定スルモノナリ

一、蘇支密約說アルモ自分ハ何等之ニ關シ聞キ居ラズニ云々北平、天津、南京、漢口、廣東、香港へ轉電セリ

(付記)

昭和十一年四月九日

カドガン大使は外務省幹部との会談において
政治問題には全く言及しなかつた旨通報

付記 昭和十一年四月九日付、陸軍省作成

「日英協力ニ依ル對支經濟援助ニ關スル件」

本省 4月11日發

合第一八三號

駐支英國大使「カドガン」ハ「エンプレスオブカナダ」號ニテ七日神戸着重光次官ノ午餐會及英國大使ノ晚餐會等ニ於テ次官以下本省幹部トモ會談セルカ政治的問題ニハ全然觸ルルコトナク十日横濱出帆歸國ノ途ニ就ケリ今次同大使ノ日本立寄ハ支那問題ニ付日英間ニ何等詰合ヲツケンカ爲ナリ等ノ報道モアリ以上念ノ爲尙我方ニ於テ日英關係ヲ重要視スル點ニ關シテハ次官ヨリ充分説明シ置ケル趣ナリ

英ヨリ在歐各大使ニ轉報アリ度

米ヨリ紐育ヘ轉報アリ度

斯即支那就中南京政府及英國ノ眞面目表裏詐ナキ對日反省是ニシテ之ナキ限り英ノ提携ニ應スルハ危險此ノ上ナキコトト思料セラル

一、英國ハ本國ノ經濟情勢上對支經濟權ノ再建擴大ニ關シ全幅ノ努力ヲ傾注シ殊ニ最近ニ至リ「リースロス」等ノ活動ニ依リ英ノ單獨對支經濟援助ヲ實施シタル結果支那ノ經濟救濟ニハ必然日本ノ協力ヲ要スルコトヲ痛感シタルカ如シ

右ニ關シ英國ノ日本ニ求メントスルモノハ實ハ我經濟援

助ニアラシテ日本ノ對支軍事的政策的脅威妨礙ノ中止之ニ依リテ招徠セラル支那ノ一般的安定ナリ

二、此ノ際日本カ英國ノ提議ニ應スルコトハ諸般ノ關係上日本ノ爲百害ヲ貽スモノニシテ徒ラニ英國ノ對支經濟制羈^(續)ノ野望ヲ達成セシムルニ過キサルモノト認メラル

即現情勢ニ於テハ何國ノ經濟援助ト雖眞ニ支那民衆ノ福利増進ニ貢獻スルコト能ハサルノミナラス却ソテ南京政府其他ノ坑口^(続)的勢力ニ之ヲ惡用セラルモノト考ヘラル加之日英協同援助モ支那ハ英ノ好意ノミヲ採り日ノ實益ヲ拒否シ究局ニ於テ日本ハ英國ノ爲ニ火中ノ栗ヲ拾ヒ英ノ勢力ヲ培養スルノ結果ヲ招徠スルモノト察セラル

三、翻ツテ本件ノ我カ對支政策ニ與フル影響ヲ觀察スルニ本件ノ實現ニ伴ヒ北支、西南其他ノ反蔣親日的諸勢力ハ一朝ニシテ日本ニ離反スヘク南京政府亦日本ノ對支緩和ニ增長シ現ニ彼ノ企圖シツツアル對英米蘇提携ノ實ヲ擧クルニ至ル虞甚タ大ニシテ茲ニ日本ハ全面的ニ對支既定政策ヲ放棄スルコトトナリ同時ニ對支後退ヲ餘儀ナカラシムルニ至ルヘシ

四、之ヲ要スルニ本提携ヲ受理スルニハ根本的先決條件ヲ要ノノ決シテ首肯シ得サル所ナリ

日英協力ニ依ル對支經濟援助ニ關スル意見右ノ如シト雖日本ハ茲ニ露骨ニ對英挑戦ヲ策シ公然支那經濟爭霸ヲ企ツルコト未タ其ノ機ニアラスト觀察セラル又故ラニ英國ノ對支既得權益ヲ蹂躪スルコト亦適當ナラスト確信シアリ

リ

~~~~~

990 昭和11年4月24日 在南京須磨總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

張公權が英國との鉄道借款問題を説明し特殊  
關係にあるもの以外は日本側との提携を優先  
すると言明について

南京 発  
本省 4月24日夜着  
第三五三號

往電第三二一號後段ニ關シ  
二十四日會見ノ際張公權ニ對シ「ハモンド」報告ノ經緯モ  
アリ「リースロス」等ニ於テ支那鐵道ニ切實ナル關心ヲ斷  
タサル様子ナルカ如何ト質問セルニ張ハ「リ」ハ成程粵漢、  
九龍兩線聯絡希望ノ趣旨ヲ廣東當局ニ申入レタル趣ナルカ

991 昭和11年5月4日 在廣東河相總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

廣東省鉄鋼廠建設に關する英國企業と同省政  
府との借款契約成立について

第一〇六號  
廣東 5月4日夜着  
本省 5月4日夜着

普通第一〇四號拙信ニ關シ  
四月二十八日當地英國領事等立會ノ下ニ英商H. A. Brassert  
會社代表ト廣東省政府當局トノ間ニ鋼鐵廠建設費二百萬磅  
(香貨三千萬弗)ノ借款契約調印セラレタル旨當地及香港英  
漢字新聞ニ掲載セラレタルヲ以テ館員ラシテ英國領事及市  
政府側ニ確メシメタル處何レモ多クヲ語ルヲ避ケタルモ右  
ハ事實ナル旨答ヘタル由  
支、南京へ轉電シ香港へ暗送セリ  
支ヨリ上海へ轉報アリタシ

992 昭和11年6月19日 在南京須磨總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

リース・ロス帰國に際し同人と中國側との間  
に借款に関する合意は何ら成立しなかつた旨  
孔祥熙内話について

南京 6月19日夜着  
本省 6月19日夜着  
第四四〇號  
本十九日孔祥熙ニ會見セルニ先ツ孔ヨリ「リースロス」日

自分旅行ノ際ハ香港側ヨリモ右様ノ話モナカリシノミナラ  
ス廣東側ハ強ク反対シ居リ旁支那トシテハ當令問題トセサ  
ルヘク又杭州寧波線建設ニ付銀公司及中英公司ノ引受ヶタ  
ル一千六百萬元ノ公債ハ昨年發行ノ筈ナリシニ財界不況ヲ  
理由トシ一年延期ヲ申出テタルカ此ノ五月ニテ右期限モ切  
ルル所中英公司ニ對シテハ又復延期ヲ申出テ延期不能ナラ  
ハ英國側ヨリ別ニ借款シテハ如何トノ話モアリシカ鐵道部  
ハ期限通り公債發行方ヲ迫リ居ル次第ナリト述ヘ張ハ此ノ  
機會ニ自分ノ在任中ハ特殊ノ關係アルモノノ外ハ必ス日本  
側トノ提携ヲ先ニスル積リナリト述ヘタリ  
支へ轉電セリ

本ニ於ケル話合如何ト尋ネタルニ依リ本官ヨリ然ルヘク應  
酬ノ上詳細ハ「リ」ヨリ貴方ニ既ニ話濟ナルヘント言ヘル  
ニ孔ハ實ハ日本側ニハ共同借款ノ見込ナシト報告アリタル  
處支那ハ曾テ幣制維持ノ爲日本側始メ各國ニ借款方申出テ  
タルニ快諾ナク爾來自力ニテ押通ス覺悟ニテ萬事順調ニ進  
ミ支那トシテハ今ノ處借款殊ニ共同借款等ハ當ニシ居ラサ  
ルモ英國側ハ舊債カ幾分ナリトモ名目ノ立ツ様整理付カハ  
鐵道建設位ニ  
多額ノ投資ヲ爲シ度キ希望ナルカ(本日張公權モ本官ニ對  
シ英國側ヨリ湘渝鐵道ヲ中心トスル四川方面鐵道ニ一千五  
百萬磅位入用ナラスマト申出アリンハ事實ナリト語レリ)  
左リトテ右ヲ單獨ニ遣レハ借款團各國ノ反対ヲ受クル惧ア  
リ旁成立ノ見込ハ如何ニモセヨ先ツ日本側ニ協同方申出テ  
居ルニアラスマト察セラルト述ヘ又「リ」カ「ロージヤー  
ス」ヲシテ立案セシメタル中央銀行改組案モ細ノ點ニノミ  
「リ」ハ支那トノ間ニ前記ノ投資ニ付幾分話合ヘル外ハ何  
等議纏マラス歸國スルコトナリ本日暇乞ニ來寧セリト遠  
慮勝ニ述ヘ居タリ

支、北平、天津へ轉電セリ

~~~~~

993 昭和11年6月25日 在中國川越大使より
有田外務大臣宛(電報)

リース・ロスの對中鉄道借款構想などに関するホール・パツチ説明について

付記

対中經濟援助のための國際協調に関する四国借款團英國代表意見へのわが方対処方針

上 海 6月25日後発
本省 6月25日後着

第四八六號

二十四日館員ヨリ「ホールパツチ」ニ對シ往電第四二一八號(一)ノ回欽渝鐵道計畫ニ付追求スルト共ニ「リースロス」ノ所報一千五百萬磅借款計畫ニ付說明ヲ求メタルニ「ホ」ハ欽渝鐵道ニ付テハ例ノ「メルレ」一派ニ於テ交渉シ居ルモ具體的結果ニハ達シ居ラサルカ如シ(「メルレ」關係ノ主要人物「フランソワ」ナル者ノ來滬中ニテ近ク館員ヲ來訪シ詳シク御話スヘシト言ヒ居タリ)「リ」ノ計畫ハ是等曇

北平、南京、天津へ轉電セリ

(付記)

對支借款團ノ精計ニ依リ對支經濟援助ニ關シ列國間協調方ニ關スル「アディス」ノ意見ニ付キ(一)對支經濟援助ニ關スル日本ノ意向ハ「リースロス」根本方針及一般應酬振ニ記載ノ通ナリ(二)列國カ拔馳的行動ニ出テサラムトスルコトニ對シテハ異議ナシ。但シ一九二三年借款團規約ノ精神ニ依リ協調スルコトニ對シテハ必スシモ贊成シ得ス(即チ日本ハ列國

ト全然平等ナルコトヲ予想スルヲ以テナリ尤モサリトテ明確ニ反對ヲ表明スルコトモ機微^(機微)ナルヘシ)依テ英國側ニ對シテハ日本カ東亞ニ於ケル安定勢力ナル事實ヲ充分認識スルヲ要スル旨述ヘ大体回避的態度ヲ持スルヲ可トスヘシ

(三)英國側ハ最近屢々借款團關係國間ノ協調ヲ云々スルモ右ハ動機必スシモ純ナラサルヤノ疑アリ蓋シ英國ハ團匪賠償金返還分ノ運用ニ依リ最近事實上ノ借款ヲ拔馳的ニ實行シ居リ殊ニ今回ノ中英公司及銀公司ニ依ル滬抗甬鐵道借款^(借款)(百拾万磅)ノ如キハ借款團規約ノ精神ニ反スル嫌アルナリ(支那ニ於テ公募セサルコトトシ且借款當事者カ中英公司ナル借款團英國側加盟員ニ非サルモノタル等形式上辨明ノ余地アリ)夫レカアラヌカ英國側ハ最近屢々中英公司ノ活動ニ關聯シ又ハ其ノ他ノ機會ニ於テ借款團ノ精計ヲ復活ヲ云々スル傾向アリ、右ハ一種ノ逆宣傳トモ認メ得ヘシ

編注一 本意見とは、昭和十一年六月上旬、アディスが横浜正

金銀行ロンドン支店長加納久朗(四国借款團日本側代

昧ナル個人ノ部分的計畫ヲ支持セントスルモノニアラスシテ支那ノ必要トスヘキ鐵道ノ路線及資金ニ付支那側及關係國間ニ篤ト協議ヲ遂ケ何ノ線ハ甲國ト乙國ノ共同、何ノ線ハ丙國單獨ト言フ風ニ話ヲ付ケタル上鐵道建設ヲ促進セントスルモノニシテ之カ爲材料及資金合計一千五百萬磅位ヲ要スヘシト考ヘ居ルモノナリ右ハ支那側トノ間ニ格別ノ話進ミ居ル次第ニアラサルモスル案ニ依ラサル限り列國間及各國ノ各種企業家間ニ無用ノ競争ヲ生スルノミナルヘシト述ヘ居タリ

英國の対中経済活動増大に關し在中国仏國大使が懸念を表明したとの情報について

南京 7月17日後発
本省 7月17日夜着

⁽¹⁾ 第五〇三號
昨十六日本官上海ニ出張中「パブロフスキイ」來訪「ナジヤル」ヨリノ話トシテ今回赴任ニ際シ政府ヨリ英支關係餘程進ミ居ル際一刻モ手遲レトナラサル様活動シ見ルヘントノ内訓アリ「ナ」カ巴里ニ於テ得タル印象ニ依レハ英國ハ「リースロス」ノ手ニ依リ支那金融財政及經濟ニ關シ孔祥熙、宋子文ト餘程ノ聯絡ヲ着ケ現ニ中央銀行ノ改組ト稱シツツ同銀行カ政府及他ノ銀行ヨリ獨立スル迄ハ當分ノ間香上銀行及「チャータード、バンク」ヨリ無制限ニ「クレジット、ローン」ヲ遣リ得ヘキ話合ヲ爲シ其ノ他楊子江ノ航運、支那各地鐵道ノ新設等ニ付餘程ノ具體案ヲ作成シ唯果シテ英國政府及事業家カ其ノ通ニ動クヘキヤ疑ハレ居ルモ支那側トシテハ英國カ政治的ニモ支那ト了解ヲ着クルモノ

支ヨリ上海へ轉報アリタシ
支、北平、天津へ轉電セリ

ナルヘキヲ見込ミ餘程期待シ居ル趣ナリト述ヘ元來英國ハ支那ニ於ケル利害ハ拋棄セスト決意シ執拗ニ之カ保持ヲ主張シ先ツ各國共同ノ戰線ニ依リ達成セントシタルモ列國ハ踊ラス

次⁽²⁾テ日本ノミト結ハントセルモ效果ナク爲ニ客年秋頃ヨリ單獨ニ支那トノ了解ヲ狙ヒ最近北支ノ密輸等ト結着ケ日本ノ對支進出ヲ牽制シ遣ルヘントノ期待ヲ與ヘ借款團等ヲ事實無効トスル建前ニテ現ニ先般ノ滬杭甬鐵道ニ關スル公債ヲ中英公司カ銀公司ト共ニ協議ノ上上海ニ於テ發行スルト同時ニ倫敦ニ於テ他國ト相談ナク「クオート」シタルハ明カニ借款團規約ノ違反ニシテ事實張公權ハ自分(「パ」)ニ對シ右ハ借款團カ死物トナレル先例ナリト語レル程ナレハ「ナジヤル」ニ於テ場合ニ依リテハ英國側ニ抗議スルコトモ必要ナルヘシト見居レリト内話セリ尙最後ニ「パ」ハ支那側ニテ本件ニ關シ抗議ノ意図ナリヤト質セルニ付本官ヨリ借款團ハ元來時代ニ適セス且本件ハ大問題ニモアラスト「デイスカレジ」シ置キタリ

支ヨリ上海へ轉報アリタシ
支、北平、天津へ轉電セリ

「隴海鐵道借款整理ニ關シ二十四日武府電報ハ支那政府側ノ債權者委員會トノ間ニ
(一) 本年七月ヨリ年利一分五厘ノ割ニテ利子ヲ支拂フ
(二) 利率八年四分ニ達スル迄毎年五分宛增加ス
(三) 支拂延滞中ノ利札ハ「キヤンセル」ス
トノ協定成立シタル旨報シタリ
ニ又廣九鐵道借款整理問題モ左記條件ニ依リ解決ヲ見タル旨ニ十六日各新聞ハ報道セリ
(一) 利子ハ最初ノ二十年間年一分五厘其ノ後ハ五分ノ割ニ
テ支拂フ但シ鐵道ノ純益二十萬弗ヲ超エタルトキハ超過分ハ最高五分ニ至ル迄利子増額ニ充テ殘餘ハ元金ノ支拂増加ニ充ツ
(二) 利子支拂ハ一九三七年六月一日ヨリ開始ス
(三) 支拂延滞中ノ利子五分ノ四ハ「キヤンセル」セラレ殘餘ニ對シテハ無利子ノ假證券ヲ發行ス

995 昭和11年7月30日 在中國川越大使より
有田外務大臣宛(電報)

ロンドンにおいて中國側が經濟開發のために
巨額の借款を求めているとのロイター報道について

上海 7月30日後発
本省 7月30日夜着

第五九三號

倫敦二十九日發路透ハ同地ニ於テ支那力經濟開發ノ爲巨額ノ借款ヲ求メ居ル旨ノ報道再ヒ行ハレ居ルカ其ノ額ハ二千萬磅ト云ハレ日、英、佛、白ノ四國ヨリ提供セラルヘク財政家ハ右借款ノ交渉ハ複雜ニシテ長引クヘク擔保問題モ亦困難鮮カラサルヘシト報シ居レリ
北平、南京へ轉電セリ

~~~~~

996 昭和11年8月26日 在英國吉田大使より  
有田外務大臣宛(電報)

隴海鐵道借款や廣九鐵道借款など鐵道債務の逐次整理を材料にロンドンにおける中國公債

四一九三六年六月一日ヨリ年五十五萬弗(一九四一年六

月ヨリ八十萬弗ニ増加)ノ債務支拂基金(An annual loan service fund)ヲ設ケ右金額ヨリスル元金ノ支拂ハ

一九三七年六月一日ヨリ開始ス

(元金ハ五十年以内ニ償還セラルヘシ

三、今年ニ入りテヨリ津浦線、河南鐵道、隴海鐵道、廣九鐵道ノ借款整理問題ノ逐次解決ヲ見タル次第ナルカ當地ニ

於テハ右ヲ以テ支那カ對外信用恢復ノ爲ノ努力ナリトシ一般ニ歡迎シ支那公債市場ハ一般ニ好調ヲ報セラル

~~~~~

997 昭和11年9月19日 在広東吉竹總領事代理より 有田外務大臣宛(電報)

香港總督が廣東を訪問し蔣介石ら中國側要路

と会談実施について

廣 東 9月19日後発
本 省 9月19日後着

④四二九號

「カルデコット」香港總督ハ十七日朝夫人同伴廣九鐵道ニテ來粵シ直ニ蔣介石ヲ黄埔司令部ニ公式訪問シ翌十八日ハ

支、北平、在支各總領事、汕頭、廈門へ轉電シ香港へ暗送セリ

ノ際夫人ヲ通シ總督カ蔣介石ニ面會ヲ希望セルニ付宋ヨリ訪問ニ關スル取極ヲ爲シタルカ真相ニテ滯在中ノ行動モ全ク社交的ノモノニ終始シ廣九、粵漢兩鐵道聯絡問題等ノ政治問題ニハ全然觸レサリン由ナリ
支、北平、在支各總領事、汕頭、廈門へ轉電シ香港へ暗送セリ
支ヨリ上海へ轉報アリタシ

~~~~~

999 昭和11年9月27日 在広東中村總領事より 有田外務大臣宛(電報)

広東における英國極東空軍司令官と蔣介石との会見によつて中國空軍への英國人顧問招聘  
が近く実現するとの新聞報道について

廣 東 9月27日後発  
本 省 9月27日夜着

第四六三號

1000 昭和11年9月30日 在中國川越大使より 有田外務大臣宛(電報)

華北における日本勢力拡張防止のため歐米各國の北平駐屯軍増強を英國武官が唱導したとの情報について

上 海 9月30日後発  
本 省 9月30日夜着

第八二二號

二十五日ノ「サウス、チャイナ、モーニング、ポスト」ニ依レハ「エーア、コンマンダー、シドニー、スマス」(極東空軍司令)ハ二十四日飛行機ニテ廣東ヲ訪問シ蔣介石ニ

視察シ更ニ市政府大禮堂ニ於ケル香港總督歡迎午餐會ニ臨ミ同夜ハ英國總領事主催ニテ官邸ニ於テ蔣介石、余漢謀、黃主席、曾市長、刁外交特派員、宋財政廳長等ヲ晚餐ニ招待セリ

一行ハ十九日朝鐵路ニテ歸香セリ  
支、南京、北平、廈門、汕頭へ轉電シ香港へ暗送セリ

998 昭和11年9月25日 在広東中村總領事より 有田外務大臣宛(電報)

香港總督と蔣介石との会談では粵漢・廣九両鉄道連絡問題など政治問題には触れなかつた  
との情報について

廣 東 9月25日後発  
本 省 9月25日夜着

④四五三號

往電第四二九號ニ關シ  
香港總督一行當地訪問ニ關シ確カナル筋ニ就キ查報スル所ニ依レハ先日宋美齡カ香港滯在中總督夫人ノ好遇ヲ受ケ其

軍政當局各長官ヲ往訪ノ上中山紀念堂、中山大學其ノ他ヲ視察シ更ニ市政府大禮堂ニ於ケル香港總督歡迎午餐會ニ臨ミ同夜ハ英國總領事主催ニテ官邸ニ於テ蔣介石、余漢謀、黃主席、曾市長、刁外交特派員、宋財政廳長等ヲ晚餐ニ招待セリ

名位ノ兵員ヲ増加シ次テ事態ノ推移ニ伴ヒ隨時増員スルコトトナレル由ナル旨報道シ居ル處佛國側ヨリ得タル情報ニ依レハ佛國極東艦隊司令官「エステバー」ハ先般北平ニ赴キ同地ノ歐米各國武官トノ間ニ北平大使館ノ南遷問題及大使館兵營ノ増強問題ニ關シ會談セル由ニテ又右ニ關シ當地英國陸軍武官ハ各國共北支ニ於ケル勢力維持ノ必要ヨリスルモ特ニ此ノ際日本ノ北支ニ於ケル勢力擴張ヲ防止スル意味ニ於テモ引續キ北平大使館ヲ存置スルノミナラス大使館兵營ノ増強ヲ計ル必要アリトノ口吻ヲ諜報者ニ漏ラシタル趣ナリ

北平、在支各總領事、香港へ轉電シ上海へ轉報セリ

1001 昭和11年10月1日 在シンガポール都司(喜一)總領事より  
有田外務大臣宛

#### 香港・台灣間航空連絡に関する英國極東空軍

司令官との意見交換について

(10月27日接受)

機密公第二八五號

昭和十一年十月一日 在新嘉坡

過般來數回當地英國極東空軍司令官「シドニースミス」ニ面會ノ際談遇々本邦ト「イムペリアル、エーアウエイ」連絡方ニ及ビタルヲ以テ本邦ニ於テハ内地臺灣間ニ航空路アリ、英國側ニ於テモ彼南經由香港線既ニ開通シ、香港、臺灣間僅ニ五、六百哩ニ過キサルニ不拘、此ノ間ノ連絡ナキコトハ本邦及當方面間ノ貿易其他通信連絡上甚タ遺憾ニシテ現在ニ於テハ本邦ハ新嘉坡方面ヨリスレハ最モ遠隔ナル地域ノ一トナレリト申述ベタルニ同司令官ハ右ハ尤モノ儀ニシテ汎米航空會社ト「イムペリアルエーアウエイ」トノ連絡モ近キニアルヘキニ日本トノ連絡ナキコトハ日本カ商業的ニ全ク「セグレゲート」セラルルコトナリ、日本トシテ採ルヘキ策ニアラス、英國トシテハ若シ相互的ノ條件ナルニ於テハ何時ニテモ連絡方交渉ニ應スルナルヘシト答ヘタルニ付キ貴官ハ軍人ニシテ商業航空路ニハ關係ナキニアラスヤト問ヒタルニ自分ハ當方面各地ノ航空路ヲ測量シ

當方面ノ専門家ナルニ付キ歸英後(本年十一月歸英ノ豫定)モ航空省ヨリ各種ノ諮詢ヲ受クルノ立場ニ在リ、若シ日本カ相互的條件ニテ交渉ヲ開始スルニ於テハ右成立立方努力スル覺悟ナリト語レリ、尙當地ヨリ北「ボルネオ」方面經由

「ミニラ」ニ至ル航空路計畫(客年三月十九日附公第七五號報告參照)ハ最早中止スル見込ナリヤト問ヒタルニ右ハ中止シタル譯ニアラス、未ダ調査中ニ屬スト答ヘタリ、尙同

線ノ着陸地點ハ新嘉坡、「クチン」、「ビンヅル」、「ミリ」、「ラブアン」、「ゼッセルトン」、比島領「パラワン」島ノ中

部ニ在ル「ペルタプリンセサ」附近及「ミニラ」トナリ居レリ  
右何等御参考迄ニ申進ス

本信寫送付先、英國、香港、臺灣外事課長

1002 昭和11年10月5日 在香港水沢總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

#### 廣東鐵鋼廠建設問題など香港總督・蔣介石会

談の内容に関する諜報について

外務大臣 有田 八郎殿  
本邦ト英國航空路連絡方ニ關スル「スマス」  
司令官ノ談話ノ件

過般來數回當地英國極東空軍司令官「シドニースミス」ニ面會ノ際談遇々本邦ト「イムペリアル、エーアウエイ」連絡方ニ及ビタルヲ以テ本邦ニ於テハ内地臺灣間ニ航空路アリ、英國側ニ於テモ彼南經由香港線既ニ開通シ、香港、臺灣間僅ニ五、六百哩ニ過キサルニ不拘、此ノ間ノ連絡ナキコトハ本邦及當方面間ノ貿易其他通信連絡上甚タ遺憾ニシテ現在ニ於テハ本邦ハ新嘉坡方面ヨリスレハ最モ遠隔ナル地域ノ一トナレリト申述ベタルニ同司令官ハ右ハ尤モノ儀ニシテ汎米航空會社ト「イムペリアルエーアウエイ」トノ連絡モ近キニアルヘキニ日本トノ連絡ナキコトハ日本カ商業的ニ全ク「セグレゲート」セラルルコトナリ、日本トシテ採ルヘキ策ニアラス、英國トシテハ若シ相互的ノ條件ナルニ於テハ何時ニテモ連絡方交渉ニ應スルナルヘシト答ヘタルニ付キ貴官ハ軍人ニシテ商業航空路ニハ關係ナキニアラスヤト問ヒタルニ自分ハ當方面各地ノ航空路ヲ測量シ

(一)陳濟棠時代林雲陔ノ計畫ニ係ル廣州市外鋼鐵工場建設ノ件ヲ更ニ大規模ニ復活シ英國ヨリ三百萬磅投資セシムルコト  
(二)廣東省沿岸全線ニ亘ル防備工事ニ關シ英國ヨリ専門家並ニ材料ヲ供給スルコト  
(三)九龍租借地ノ防禦施設ヲ支那側ニ於テ默認スルコト  
右ノ内(一)及(三)ハ了解成立(二)ニ關シテハ蔣介石即答ニ至ラス南京ニ於テ政府首腦者ト協議ノ上回答スルコトト爲シタル趣ナリ  
又前記(一)ハ簡單ナル投資ニアラス之ニ依リテ英國ハ南支各省產出ノ鑛石處分權ヲ一手ニ收メ其ノ代償トシテ英國製品

特ニ織物類ヲ輸入セントスルモノ故日本ニ及ホス影響鮮力  
ラサルヘシト

詳細郵報ス

支、南京、北平へ轉電シ廣東へ暗送セリ

支ヨリ上海へ轉報アリタシ

~~~~~

1003 昭和11年10月14日 在中國川越大使より 有田外務大臣宛(電報)

英國による對中クレジットないし對中借款成

立の報道は全くの誤報であるとホール・パッ

チ説明について

上海 10月14日後発 本省 10月14日夜着

第八五九號

英國對文「クレジット」又ハ借款成立ニ關スル倫敦發路透及東京發同盟ノ報道ハ今十四日英支朝夕刊新聞ヲ賑ハシ居ル處右ニ關シ「ホールパツチ」若杉ヲ來訪シ借款成立說ハ全クノ誤報ナルカ實ハ從來英國ニ於テ制定セラレ居ル「エキスポート、クレジット、デパートメント」ノ主管ニ係ル

南京、北平、天津へ轉電セリ

~~~~~

1004 昭和11年10月15日 在南京須磨總領事より 有田外務大臣宛(電報)

英國による對中クレジット成立說に關する英  
国企業關係者および董道寧らの内話について

南京 10月15日後発 本省 10月15日夜着

英支第八三七號

英支「クレジット」協定成立立方ノ路透電ニ基キ昨十四日來訪ノ「ケズーアイツク」ニ質シタルニ「ケ」ハ御承知ノ通り自分ハ香上銀行並ニ中英公司ニハ深キ關係ヲ有シ居リ若シ右兩者ノ孰レカカ關係シ居ルモノナラハ自分ノ關知セサル間ニ此ノ種協定成立スル筈ナキ處倫敦發路透ニモアリ全然誤報トハ思ハレサルニ付若シ事實トセハ自分等ニスラ氣付カレサル様極祕裡ニ行ハレタルモノナルヘク唯數日前「エキスポート、クレジット、デパートメント」ヨリ近ク支那デン」ニモ入電アリシニ付「エキスポート、クレジット、ギヤランチ」ノ關係トシテ成立セルモノナラント述ヘ居タルカ本十五日來訪ノ董道寧ハ本件話合成立ヲ肯定シ「リ一

ス、ロス」ハ豫テ日本側ニモ申入レタル一千萬磅對支借款團ノ計畫カ日本側ノ話ニ依リ不成立トナリシモ支那ノ幣制維持ノ爲ニハ是非共右額ノ少クトモ「クレジット」ヲ必要トスヘキ旨ノ見解ヨリ

六月支那ヲ離ル迄ニ大體支那側ト話合ヒタルモノヲ歸英後成立セシムルニ至レリト語リ尙本日本官ヨリ吳震脩ニ對シ質シタルニ「リース、ロス」カ在支中宋子文、孔祥熙ト概略話合ヲ遂ケ大體五百萬磅ノ「クレジット」ヲ設定スルコトトシ歸英後主トシテ「モンタギュ、ノーマン」ノ了解ニ依リ出來上リ掛け居タルカ「リ」ノ歸英後ノ交渉ハ中國銀行ヲ代表スル意味ニ於テ郭泰祺カ「リ」ト聯絡シ全然極祕裡ニ進展セシメ居タルモノノ如キカ果シテ確定的ニ成立セルヤハ疑問ナルモ本年ハ豐作ノ爲地方ヨリノ現銀集マリ來ラス又客年末ヨリ毎月二千萬元ニ達スル財政填補アリ事實上「インフレーション」ヲ行ヒ來リ特ニ中秋節以後其ノ傾向著シク爲ニ支那側ヨリ本件協定ノ成立ヲ促進シ居タルヘキハ想像ニ難カラス又英國側カ日支交渉ノ潮時ニ發表スルコト其ノ對支政策上ヨリ面白シト見居ルヘキハ自然ナレハ右様ノ事情ニテ路透電トナリシモノト考ヘ居レリト述

ヘタリ

支ヨリ上海へ、北平ヨリ天津へ轉報アリタン  
支、北平へ轉電セリ

~~~~~

1005 昭和11年10月15日 在中國川越大使より
有田外務大臣宛(電報)

英國による對中クレジット成立説を孔祥熙は
否定せず金額や契約内容の発表は時期尚早で

あると新聞記者へ説明について

上海 10月15日後発

本省 10月15日夜着

第八六一號

往電第八五九號ニ關シ

孔祥熙ハ十四日往訪ノ支那新聞記者ニ對シ本件對支輸出信
用設定ヲ敢テ否定セス但シ金額折衝ノ經過及契約ノ内容ハ
時機尚早ニシテ發表出來サルモ此ノ種ノ國際借款ハ極メテ
普通ノコトニテモアリ又金額モ左シテ多カラス驚クニ足ラ
ヌコトナリ云々ト語リタル趣ナリ

北平、南京、天津へ轉電シ上海へ轉報セリ

~~~~~

1006 昭和11年10月15日 在英國吉田大使より  
有田外務大臣宛(電報)  
相説明について  
ロンドン 10月15日後発  
本省 10月16日前着

第五五六號(極秘、館長符號板)

本十五日 Neville Chamberlain ヨリ午餐ノ招待ヲ受ケ其ノ席  
上「チエ」ハ十五日附「デーリー、テレグラフ」切抜ヲ示  
シ(在東京通信員發(十四日)英ハ蔣介石ヲ後援シ日本ニ對  
抗ストノ桑島局長談記事)右記事ハ自分ノ意外且遺憾トス  
ル所ナリ日英間ノ關係ハ曰今ノ形勢自然自分ニ於テ最重視  
スル所ニシテ寧ロ何故ニ提携ヲ爲ササルヤヲ不審トスル程  
ニテ從テ貴國政府ヲ出抜キテ借款談ヲ行フカ如キ素ヨリ思  
モヨラス又今後トテモ斷シテ其ノコトナキヲ確言ストテ極  
メテ不快ノ面持ヲ示シ今日ハ餘人ヲ交ヘス會談ノ機會ヲ得  
タルニ付先ツ以テ今回ノ對支「クレジット」(松山發電第  
二〇三號及第二〇五號)ノ性質ヲ御詰致度キ考ナリ貴國政

府へ最明瞭ニ御説明願度シ

抑々今回ノ對支「クレジット」賦與ハ何等南京政府ト交渉  
關係ナク全然 Export Credit Guarantee Department 及英國商  
社トノ關係事項ナリ昨今支那へ輸出セラル鐵道及電氣機  
械等所謂 capital goods ハ獨逸政府許與ノ「クレジット」ノ  
效力等ニ依リ獨逸品英國品ヲ凌駕シ其ノ市場ヲ奪ヒツツア  
ルヲ以テ我モ亦「クレジット」制ヲ利用シ之カ對應策ヲ講  
スルカ爲不敢同「デパートメント」ヨリ人ヲ支那ニ派遣  
シ英商ノ個々ノ取引ニ付其ノ性質ヲ調查セシメ其ノ報告ニ  
基キ英商社ノ願出ニ從ヒ「クレジット」附與ノ可否ヲ決定  
スルコトセル次第ナリ此ノ種計畫ハ支那ニ於テ初メテ試  
ミラレタル次第アラス亞爾然丁、獨、蘇聯、「スカンジ  
ナヴィア」諸國其ノ他多數國ニ付既ニ施行シツツアリ之ヲ  
以テ見ルモ政治的意味合モナク又其ノ性質「ローン」ナラ  
サルコトモ多言ヲ俟タス云々ト語レリ

地で検討するため下院議員カーケ・パトリック  
クが訪中する旨英國大使館發表について

上海 10月20日後発  
本省 10月20日夜着

第八七〇號

往電第八五九號ニ關シ

二十日在支英國大使館ヨリ英字新聞ニ發表セル「ステート  
メント」ノ要領左ノ通

今回下院議員「カーケ、パトリック」ハ輸出信用保證局ノ  
駐支代表ニ任セラレ倫敦本局ニ暫ク勤務ノ上近ク支那ニ赴  
キ商務官ト協力シ事務ニ當ルコトトナレルカ右ハ元來支那  
ニ對スル英國輸出品關係ニテ信用享受方ノ申請多數アルモ  
現地ノ事態變動シ易キ爲危險ノ見透付キ難ク又本局ニテノ  
取扱ハ通信ニ要スル時間ト費用上不便アルニ付特別代表者  
ヲ現地ニ派シ是等申請ヲ攻究考慮セシメ且詳細ナル調査及  
必要アラハ商談ヲモ爲サシメントスルモノニシテ全ク受身  
ノ仕事ナリ元來對支輸出品ハ現行信用保證制度ノ適用ヲ受  
ケ得ル立場ニアルヲ以テ今回ノ措置ハ之ニ均霑セントスル

七 中国をめぐる列国との関係

1007

昭和11年10月20日 在中國川越大使より  
有田外務大臣宛(電報)

對中英國輸出品に関するクレジット申請を現

付右ハ純商業的ノモノト言フヘク補助金ニハアラス又英帝  
國內ニアル對支輸出業者ヲ對象トスルニ付支那政府ニ對ス  
ル借款又ハ「クレデット」ノ交渉アリタル旨ノ報道ハ事實  
無根ナリ

南京、北平、天津へ轉電セリ

1008 昭和11年10月29日 在中國川越大使より  
有田外務大臣宛(電報)

英國産業連合海外貿易委員会がカーケ・パト  
リック中国派遣への賛同と長期信用供与への  
期待を表明したとの報道について

上海 10月29日後発  
本省 10月29日後着

第八七八號

倫敦商務官發閣下宛電報第二〇九號ニ關シ

二十八日倫敦發路透ハ二十四日開催セラレタル英國産業聯合海外貿易委員會ニ於テ支那市場ノ研究及英支貿易増進ノ爲特別專門委員會ノ設置ヲ建議シタル旨並ニ今回ノ「カーケ、パトリック」ノ支那派遣方ニ贊同シ英國輸出業者ニ對

1009 昭和11年11月9日 在南京須磨總領事より  
有田外務大臣宛(電報)  
倫敦商務官ヨリ英へ轉報アリタシ  
南京、倫敦商務官へ轉電シ上海へ轉報セリ

对中国四國借款團英國代表が提案した対中鉄道借款計画につき在中国英國大使と意見交換

上海 11月9日夜着  
本省 11月9日夜着

第九〇九號

支宛貴電第二七一號ニ關シ(對支借款團ニ關スル件)  
本九日他用ヲ以テ英國大使ト會談ノ際輕ク「アヂス」ノ申出ニ觸レヨモヤ支那側ト下打合アルモノニハアラサルヘシ

ト述ヘタルニ對シ同大使ハ本計畫ハ倫敦出發ノ際「アヂス」等ニ於テ私的ニ自分ニモ相談シタルモノナルカ其ノ際日支間ノ現狀ニ鑑ミ此ノ種ノコトハ「much too soon」ナリトノ意見ヲ述ヘ英外務省モ大體其ノ積リナリシニ付今迄ノ處如何ナル筋ヨリモ支那側ニ當リ見タル様子ナク又且下交渉中ノ日支諸問題等ニモ鑑ミ自分ノ意見ヲ益々強ムル譯ニテ私見トシテハ先ツ日英間雙方トモ好機會到レリト思フ場合ニ兩國間ニ話合ヲ遂クルコト必要ナリト思考ス、自然「アヂス」案ハ極メテ「テンタチブ」ノモノナリト答ヘ居タリ支、北平、天津へ轉電セリ

編注 本電報にある对中国四國借款團英國代表の提案経緯は以下のとおり(東亜局第一課が昭和十一年十二月に作成した「昭和十一年度執務報告 第一冊(第一課關係)」より抜粋)。  
「十月一日「アヂス」ハ突如加納ニ對シ一九二二年五月十五日開催ノ「カウンシル」會議報告第三〇號公開入札(借款團ノ供給スル資金ニ依ル物品購入ハ如何ナル國ノ人民ニモ公開セラルヘキ入札ニ依ルコト)ハ英

スル支那市場ノ今後ノ價值ハ長期信用ヲ必要トスヘキ資本金ノ方面ニ於テ増大スルモノト信セラルル次第ナルカ「カ」ノ現地駐在ノ結果輸出信用保證部ハ必要ニ應シ從來ノ遣口ニ變更ヲ加フルコト可能ナルニ至ルヘシトノ意見ノ表示ヲ見タル旨報シ居レリ

應酬方可然旨指示シ置キタルカ正金ハ其旨倫敦加納ニ

通報シ置キタル由ナリ」

~~~~~

1010

昭和11年11月16日

在廣東中村總領事より
有田外務大臣宛(電報)

廣東省鐵鋼廠建設借款の内容に関する同省政

府建設厅長の説明振りについて

廣東 11月16日後発

本省 11月16日夜着

第五三九號

往電第一〇六號及四月九日附第二〇四號往信ニ關シ(廣東

鋼鐵廠設立計畫ニ關スル件)

本十六日本官他用ヲ以テ劉建設廳長ヲ訪問シタル處劉ハ英
國資本ニ依ル廣東鋼鐵廠ニ言及シ未タ契約ハ完成セサルモ
工事費ハ二百萬磅ノ豫定ニテ支那側ハ工場建設中ハ少額ノ
經費ヲ負擔シ工事完成引渡後前記工事費ヲ六年間ノ年賦償
還ニテ支拂ヒ何等擔保ナク省政府カ責任ヲ負フ點力要點ナ
リト内話シ尙陳ハ(第2)日本品ノ優秀低廉ナルヲ認ムルモ廣東省
政府ノ建設材料買入ニハ長期ノ「クレジット」カ必要ニテ

外國商人例へハ致國ノ「スコク」會社ノ如キ二、三年ノ後
拂ヲ承認スルヲ常トスト述ヘ居リタリ
支、南京へ轉電シ香港、上海商務官へ暗送セリ
支ヨリ上海へ轉報アリタシ
~~~~~

1011

昭和11年11月23日

在中国川越大使より  
有田外務大臣宛(電報)

宋子文の香港訪問は海南島に対する英國權益設

置につき香港總督と協議するためとの情報報告

上海 11月23日後発

本省 11月23日夜着

第九二九號

宋子文ハ廣東銀行開幕式主宰ノ爲ト稱シ十七日當地發香港  
ニ赴キタルカ右宋ノ赴香ハ英支航空聯絡ニ依ル英國「イム  
ペリアル、エアウエイズ」ノ上海延長、粵漢廣九兩鐵道ノ  
聯絡乃至ハ黃浦築港ニ對スル英國ノ投資問題ニ關シ香港總  
督ト會談スル爲ナリ等種々ノ說行ハレ居ル處館員カ支那側  
某有力者ヨリ内密聞込ミタル處ニ依レハ宋ハ海南島ニ對ス  
ル英國權益設置方ニ付香港總督ト内談ヲ遂ケル爲赴香セル

モノナル由ニテ支那トシテハ同島カ對日策戰上極メテ重要  
ナル地點ニ在リ且自國海軍力ノ貧弱ナルニ鑑ミ同島ニ對ス  
ル日本勢力ノ侵入ヲ防ク爲英國ノ利權ヲ植付ケ置クコト得  
策ナリトシ曩ノ蔣介石香港總督會談ノ節右ニ關スル原則的  
話合始メラレタルカ最近ノ日支關係ニ照シ右ノ進捗ヲ焦リ  
出シ宋ノ派遣トナリタルモノナル由聞込ノ儘(本件發表セ  
ラレサル様致度シ)

北平、香港、廣東、南京、天津へ轉電シ上海へ轉報セリ

1012 昭和11年11月24日 在中國川越大使より  
有田外務大臣宛(電報)

宋子文の香港訪問目的が海南島への英國資本

導入にあることを想像させる陳策の新聞談話  
について

上海 11月24日後発

本省 11月24日夜着

第九三三號

往電第九二九號ニ關シ

1013 昭和11年11月25日 在廣東中村總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

宋子文今次南下の主要目的は海南島開發にあ  
り既に英國側資本より經費融通の了解を得て

いるとの諜報について

廣東 11月25日後発

本省 11月25日夜着

第五五九號

支發閣下宛電報第九二九號ニ關シ

本官カ二十五日確カナル筋ヨリノ聞込ニ依レハ今次宋子文南下ノ主要ナル使節ハ海南島開發問題ニアリ既ニ「チャータード、バンク」トノ間ニ二千萬弗<sup>(金)</sup>ノ融通了解成立シ居リ中央政府ハ右資金ヲ以テ同島ノ産業開發費、鐵道ノ敷設及國防上ノ經費ニ充當セントスルモノニシテ宋ハ近日中ニ飛行機ニテ同島ニ赴キ黃強ト協議ノ豫定ナリ引續キ情報蒐集ノ必要アルニ付當分新聞等ニ發表セラレサル様致度シ

支、北平、天津、南京、福州へ轉電シ香港へ暗送セリ  
支ヨリ上海へ轉報シ福州ヨリ臺灣外事課長へ轉電アリタシ

1014 昭和11年11月27日 在香港水沢總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

香港總督・宋子文間で海南島の鐵道建設等に

関する諒解成立との報道に關し香港民政長官

が右を否定する声明發表について

香 港 11月27日前發  
本 省 11月27日後着

第一四九號

1015 昭和11年11月29日 在廣東中村總領事より  
有田外務大臣宛(電報)  
廣東省への英國資本投資が盛んに計画され  
いるが日本品購入や日本の資本・技術導入も  
考慮するよう廣州市政府へ説示について  
廣 東 11月29日後着  
本 省 11月29日後着

第十五六二號(極祕)

二十六日廣州市長曾養甫ハ祕書李芳ヲ本官ノ許ニ派シ曰下  
廣州市ノ大沙頭(中ノ島)ハ臺灣銀行ノ擔保トナリ居ルモ之  
ヲ他ニ有効ニ利用シ度ク相當ノ支拂ヲ爲スヘキニ付臺銀ヨ

リ擔保拔トナル様斡旋アリ度キ旨懇願シ來リタリ依テ臺銀  
支店ト協議ノ結果翌日李ノ來訪ヲ求メ右土地ハ最有力ナル  
擔保品ニシテ之ヲ手放スコトハ債權者ノ最苦痛トスル所ナ  
ルモ三口ノ債權各日本金二百四十萬圓ノ中二百萬圓ヲ一時  
拂トシ月賦償還額ハ現行通りト爲スニ於テハ承諾ヲ得ル様  
本官ヨリ斡旋スヘシト述ヘ又日本側ニテ公正ナル態度ヲ示  
ス以上ハ豫テ本官ヨリ市長ニ申出テ居ル日支經濟提携ニ付  
市長ノ御考ヲ知リ度ク先ツ  
(一)市政府ニ於テ從來排日感ヨリ日本品ヲ全然購入セサリシ  
モ之ヲ進ンテ

購入スル様方針ヲ改メラルコト

(二)現ニ市長カ兼任シ居ル廣汕鐵道建設委員會ハ同鐵道敷設

ニ當リ日本ノ資本及技術ニ依ルコトヲ考慮セラレテハ如何ト又斯クセラルルトキハ今般支拂ハルヘキ二百萬圓ハ必シモ回收スル必要ナク確實ナル條件ナラハ投資ヲ日本事業家ニ推薦スヘク又最近廣東省ニ於テハ英國トノ經濟提携運動盛ニ唱ヘラレ既ニ英國資本ニ依ル製鋼所ノ設置、海南島ノ開發計畫中ナリト聞クカ廣東ノ開發ノ爲慶賀ニ堪ヘス日本ハ之ヲ妨害スル意思毛頭ナシ唯英國資本

一本ニテ進ムヨリハ公平ナル條件ニ依リテ日本トモ結フ  
コトハ良キ意味ニ於テ外國資本家ノ橫暴ヲ牽制スルコト  
トナリ支那ノ爲利益ナラスヤト語リタリ  
李芳ハ擔保拔ニ付先ツ日本側ノ寬大ナル態度ヲ謝シ市長ハ  
第一點ハ既ニ本官ノ勸誘ヲ容レテ反對ヲ排シテ少量乍ラ日本  
本製ノ銅線及鐵線類ノ購入ヲ三井物產支店ニ見積ラシムル  
コトニ決定シ第二點ハ重大ナル問題ナルモ英國資本ヲ牽制  
スル意味ニ於テハ日本資本ヲ入ルルコトニ贊成ナルノミナ  
ラス

前記償還金モ再投資セラルルコトトナラハ誠ニ結構ナリ自  
分モ努力スヘシト答ヘタリ

次テ本官ヨリ汕頭、潮州間ノ鐵道ノ如キモ廣汕鐵道ノ一部  
ニ取入れラル豫定ナリト聞クカ現狀ノ如キ能率ノ上ラサ  
ルハ支那ノ爲國辱ト言フヘキカ支那側ノ希望如何ニ依リテ  
ハ滿洲方面ニテ豫備品トナリ居ル中古機關車、客車、鐵道  
材料等ヲ極メテ安價ニテ入手シ得ル途アルカ(本件ハ滿鐵  
派遣員ヨリ本官ニ話アリ)考慮シテハ如何ト述ヘタルニ好  
意ヲ謝シ居リタリ

市政府カ日本品購入ヲ決シタルハ一大進歩ナルカ現金償還

東京日日所報英支攻守協定進行中ニテ香港總督、宋子文間ニ英國カ海南島ノ鐵道建設並ニ南支ノ鑛山開發ニ當ルヘキ話合成立レリトノ上海通信ニ關シ當地民政長官ハ右ハ荒唐無稽ノ風評ニ過キス裏ニ總督カ廣東訪問ノ際ニモ同様ナル流說アリタルカ全ク事實無根ナリト聲明セル旨報道セラル支、南京へ轉電シ廣東へ暗送セリ  
支ヨリ上海へ轉報アリタシ

ノ件ハ未タ豫測シ得サルモ財政難ノ支那側カ急ニ現金償還ヲ申出テ來リタルハ土地ノ位置ニ鑑ミ英國資本ニ依ル製鋼所ヲ前記ノ土地ニ建設セントスル考ニアラスヤト推察セラル尙本件會談ハ當分絕對祕密ヲ守ルコトニ約束アルニ付御含置ヲ請フ

支へ轉電セリ

~~~~~

1016 昭和11年11月30日 在廣東中村總領事より 有田外務大臣宛(電報)

英國側財政援助による海南島への軍事施設建設計画はほぼ疑いないところ仏国の利用などによる牽制策につき意見眞申

廣 東 11月30日後発
本 省 11月30日後着

第五五六六號

往電第五五四號並ニ第五五九號ニ關シ

今般支那政府ハ英國側ノ財政的援助ヲ得テ海南島ニ軍事的施設ヲ爲ス計畫アルコトハ略疑ナク右ハ陸上ノ施設ナリヤ又ハ海上ノ設備ナリヤ未タ判明セサルモ後者ナリトセハ有

上海 12月1日後発
本省 12月1日後着

第九五二號

廣東發本使宛公信機密公領第一七三號ニ關シ

十一月三十日廣東發路透ハ廣東市政府ト英(西)General Electric Company of China及Malcolm Companyトノ間ニ夫々無軌道電車設備ノ爲三百二十萬弗及港灣土木ノ爲一百一十五萬弗材料ノ賣込契約締結セラレ英商ハ何レモ六年ノ「クレデット」ヲ供與スルコトナリタル旨報シ居レリ(委細郵報)

右ハ西南政權瓦解以來英國側ノ廣東ニ對スル活動最近頓ニ著シキ模様ナル(南京發貴大臣宛電報第九五五號、支發貴大臣宛電報第九二九號等尙「ホールパッチ」ハ先般館員ニ對シ近ク短期間廣東ニ出張スル意図ナル旨語レル趣ナリ)折柄注目ニ値スルモノト認メラル

北平、天津、南京、廣東、香港へ轉電シ上海及商務官へ轉報セリ

~~~~~

事ノ場合ハ必ス英國ニ利用セラルル危険アルコトハ想像セラルヘク我國トシテハ表面之ヲ阻止スル途ナカルヘキモ英國ノ投資カ支那ニ於ケル歐米派ニ依リテ濫用セラルル危険アル旨ヲ宣傳セシムルモ一策ナルヘシ又佛國ノ海南島不割讓條約ニテ有スル權利ハ我國ノ福建省ニ於ケル權利ノ如ク外資ニ依ル軍事施設ヲ禁止スルモノニアラサルモ海軍根據地又ハ貯炭所トシテ一時的ニモ讓與セサルヘキ趣旨ノ了解アルヘキコトナレハ佛國トシテ重大ナル關心ヲ有スル次第ナルヘク尙又福建省及海南島ニ關シテハ日佛間ニ相互尊重ノ了解アル次第ナレハ我方ニ於テ其ノ方針ニ變化ナキ限り平素ヨリ情報ヲ交換シ聯絡ヲ密ニシ監視ヲ怠ラサル必要アリト思考ス御参考迄ニ卑見申進ス

支、南京へ轉電セリ

昭和11年12月1日 在中國川越大使より 有田外務大臣宛(電報)

1017 广東における無軌道電車設備や港湾建設のための英國企業による信用供与が成立したとの報道につき報告

上海 12月2日後発  
本省 12月2日夜着

1018 昭和11年12月2日 在中國川越大使より 有田外務大臣宛(電報)

海南島への英國資本導入計画には英國に對する鉄道・鉱山の権利譲渡や同島への軍事施設建設許可が含まれるとの情報報告

第九五八號

往電第九三三號ニ關シ

其ノ後謀者ニ夫レトナク意ヲ含メテ各方面ヲ探査セシメタル處最近香港ヨリ歸來シタル當地英國商工會議所會頭「コルダー、マーシャル」ハ謀者ニ對シ右交渉アリタルコトハ事實ナルモ未タ經マリタル譯ニハアラスト語リ又香港「ジャーデン」土木會社支配人ハ謀者ト交渉アル英實業家「ジー、チャーチ」(香港、新嘉坡ニ於ケル著名ナル實業家ノ由)ニ對シ最近廣東及海南島ニ於ケル土木事業見積ノ依レハ本件交渉内容ハ英國ニ對シ鐵道及礦山ヲ讓渡シ且海南島ニ海軍及空軍根據地ノ建設ヲ許可スルコト等ノ項ヲ含

ムモノナル由右何等御参考迄

北平、香港、廣東、南京、天津へ轉電シ上海へ轉報セリ

~~~~~

1019 昭和11年12月4日 在中國川越大使より

有田外務大臣宛(電報)

廣東省經濟開発への英國など列国の參入熱に
も鑑み華南におけるわが方經濟發展方針回示

方広東總領事より請訓

上 海 12月4日後發
本 省 12月4日夜着

第九六二號

廣東發本使宛電報

第五九號

大臣へ轉電アリ度シ

第五七四號

往電第五六二號ニ關シ

市長祕書李芳ノ二日本官ニ内話スル所ニ依レハ英、米、獨
ノ大商社ハ夫々廣東駐在自國總領事ノ援助ヲ得テ極力陳濟
業時代ノ舊契約ノ承認及新建設事業ノ割込ノ爲ニ努力シ居

ルトキハ廣東ノ建設事業例へハ黃浦築港、廣汕鐵道ノ敷設
工事ノ如キモ本邦企業家カ果シテ英獨ト競争シ得ルカ如キ
寛大ナル條件ヲ提供シ得ルモノナリヤ本官應接上ノ都合モ
アルニ付南支ニ於ケル經濟發展ニ對スル政府ノ御方針及本
邦企業家ノ熱意ノ程承知致度ク何分ノ儀詳細御回電ヲ請フ
(支ヨリ)南京、福州、廈門、汕頭へ轉電シ上海へ轉報アリ
度シ

福州ヨリ臺灣外事課長へ轉電アリ度シ
香港へ暗送セリ

~~~~~

過般來廣東及廣西方面ヲ視察シタル結果ニ依レハ兩廣ノ經濟  
開發ノ可能性大ナルコトニ付確信ヲ得タリ從來廣東省ノ經  
濟開發力遲々トシテ進マサリシハ貨幣制度ノ異ナリタルコ  
ト及交通機關ノ不備ナル爲ナリシカ最近ニ於ケル貨幣制度  
ノ改革ト粵漢鐵道ノ全通ハ此等ノ欠點ヲ除却シテ同省開發  
ヘノ道ヘ一步ヲ進メタルモノナリ廣東省ノ經濟政策ハ從來  
省中心ニシテ米ヲ除イテハ紡績其他ノ事業モ省ノ自給自足  
ヲ目的トシテ設立セラレタリ而ルニ最近ノ西南ノ統一以來  
廣東ハ新タナル經濟的地位ヲ獲得スルニ至リ其ノ經濟的開  
發ノ可能性ハ企業家、銀行家ノ注目スル所トナリタリ最近  
上海交通銀行、金城銀行、大陸銀行等カ支店ヲ設置セント  
計畫シ居ルハ其ノ證左ナリ

七 中国をめぐる列国との関係

1020 昭和11年12月17日 在中國川越大使より  
有田外務大臣宛

西南方面經濟開發に關する宋子文の新聞談話報告

(12月24日接受)

昭和十一年十二月十七日

在中華民國

特命全權大使 川越 茂〔印〕

外務大臣 有田 八郎殿

西南開發ニ關スル宋子文ノ談話報告ノ件

自分ノ海南島行ハ同島開發ノ可能性研究ノ爲ナルカ同島ハ  
「ゴム」「ココア」等ノ熱帶性產物其他錫等ノ產出アル處自

リ今迄ノ處英國側ハ最モ成功シ往電第五三九號ノ製鋼廠モ  
大體見込付キ無軌道電車、水道工事ニ關シテモ六百萬元見  
當ノ購買假契約成立シ獨逸ハ「シーメンス」會社ト市政府  
トノ間ニ西村發電所建設ニ對シ香港弗七百五十萬弗六箇年  
間年賦無擔保六分利付ニテ建設契約ヲ成立セリ米國筋ハ從  
來二三ノ建設契約中舊政權ニ多額ノ賄賂ヲ提供シ之ヲ建設  
費中ニ繰入レシモノアル爲市長ノ承認ヲ要シ最モ困難ナル  
立場ニアル趣ナリ

本官ニ於テ其ノ他ノ事情ヲ綜合スルニ英國官憲及商社カ廣  
東建設事業ニ參加奔走シ居ル熱意ノ程ハ驚クヘキモノアリ  
英獨ノ諸會社カスル寛大ナル條件ヲ出シ得ルハ何等カ政府  
ノ實質的後援アリト思考セラル翻ツテ我國ヲ見ルニ活動ノ  
範圍ハ現金取引ヲ條件トスル個人相手ノ商品賣込ニ過キス  
本官ノ經驗ヨリスレハ僅カ六十萬元程度ノ福州ニ於ケル水  
道工事スラモ多大ノ困難アリタリ且下六十萬元程度ノ豆粕  
ノ信用貸ニ關シ興中公司ハ三大銀行ノ保證ヲ要求シ居ルヤ  
ノ聞込モアリ普通商人力自己ノ危險ニ於テ行フ商取引トシ  
テハ到底英獨ニ競爭スルヲ得サルヘシ然レ共國策トシテハ  
北支經濟開發ノ爲ニ多額ノ資金ヲ要スル事情アル等ニ鑑ミ

分ハ同島ノ開發ノ爲港灣ノ築造ト鐵道建設ヲ考慮中ニシテ

之カ爲約二千五百萬乃至三千萬元ヲ要スル見込ナリ

尙廣東省政府ハ黃埔港ノ改良及廣東梅縣間ノ新鐵道ノ建設

ヲ計畫中ナルカ右經費トシテ黃埔港ニハ約六百萬元、新鐵

道ニハ約四千五百萬元ヲ必要トスヘク全國經濟委員會ハ必

要ナル技術的援助ヲ與フルコトトナルヘシ

終リニ廣西省當局カ財政的困難ニ拘ハラス同省開發ニ努力シツツアルハ多トスルモノニシテ自分ハ同省ノ將來ニ於ケル經濟的發展ノ爲行クヘキ途ハ鑛山ノ開發ニアリト信ス云々

本信寫送付先

北平 南京 天津 廣東 香港

上海(別紙省略)

1021 昭和11年12月23日 在南京須磨總領事より

有田外務大臣宛(電報)

京贛鐵道建設材料供給借款契約が中英間で成

立について

南京 12月23日後発  
本省 12月23日後着

第一一〇〇號

1022 昭和12年1月12日 在中國川越大使より

有田外務大臣宛(電報)

上海に到着したカーカ・パトリックの新聞記

者に対する談話について

上海 1月12日後発  
本省 1月12日後着

第二〇〇號

十一日著滬セル「カーカ・パトリック」ハ新聞記者トノ會見ニ於テ「カ」ノ使命ハ要スルニ支那ニ於ケル英國品ノ買手ニ對シ信用ヲ供與スルノ價值アリヤ否ヤヲ研究シ勸告ヲ爲スニアル旨述ヘ且自ラ商賣ヲ見付ケントスルモノニアラス側面ヨリ商談ヲ援助スルモノニテ何等對支借款計畫等ニ關係ナク又英國側ノ信用保障ハ排他的ノモノニアラス外國側銀行商社ノ協力ヲ歡迎スル旨強調セル由

尙「カ」ハ近日北平ニ英國大使ヲ往訪ノ上上海ニ歸リ當方面ニ半年乃至八箇月位滯在スル豫定ノ趣ナリ  
支、北平へ轉電シ上海へ轉報セリ

~~~~~

1023 昭和12年1月13日 在中國川越大使より
有田外務大臣宛(電報)

中國交通網の建設など經濟開発に関する自身の見解をカーカ・パトリック説明について

支發閣下宛往電第九八四號ニ關シ

二十二日ノ行政院會議ハ鐵道部カ既ニ立法院ヲ通過シ發行

方決定シ居ル京贛鐵道建設公債一千四百萬元ヲ擔保トシテ

交通、中國等八銀行ヨリ同額ノ現金借款契約並ニ英支庚款

管理委員會及香上銀行ヨリ英金九十萬磅卽チ一千五百萬元

ノ材料借款契約(内半額ハ英支庚款管理委員會、半額ハ香

上銀行ニテ引受ケ後者ハ材料購入ヲ怡和洋行ニ委託代理セシム)調印方ヲ決議通過セリ(現金、材料兩借款共英國側取

分庚子賠款ヲ償還基金トス)

尙同鐵道ノ土盛工事ハ既ニ寧國縣ヲ通過シ徽州縣ニ向テ運

行中ニテ各種材料モ着々宜城驛ニ到着シ居レハ明年三月ニハ軌條敷設ヲ開始シ六月末迄ニハ北段ヲ完成シ得ル見込ナル由

支、在支各總領事、北平へ轉電シ九江、蕪湖へ暗送セリ
支ヨリ上海、在上海商務官へ轉報アリタシ

往電第二四號ニ關シ

十三日須磨當地ニ於テ「カーカ・パトリック」ニ面會會談要旨左ノ通

「「カ」ハ其ノ使命ニ付テ實ハ四年前ヨリ種々攻究中ナリシカ要スルニ英支經濟關係ヲ增進シ「ペーヤブル」ナル「ビジネス」ヲ發見スルニ努ムルニアリ自分ハ四、五月頃ヲ期シテ日本ニ行キ舊交ヲ溫メ度ク自分ノ計畫中外國ト協同シテ實行スルヲ適當トスルモノアラハ日本トノミ一縉ニ遣リ度ク而シテ計畫ニ入り來ルモノハ先ツ鐵道ナルカ「ハモンド」ハ既成鐵道ノ「オーバーホール」ト能率増進トヲ主トシ之ニ相當ノ資金ヲ注ギ込ム考ナリシカ自分ハ寧ロ新線ノ建設ヲ可ト認メ居レリ又自動車道路及長距離「バス」ノ開設(例ヘハ南京、漢口間及重慶、漢口間モ鐵道ヨリモ「バス」ニ主力ヲ注ギ度シ)ヲ考慮シ居レリ信用ノ額ニハ制限ナク「ペーヤブル」ノモノニシテ期限七年以内ノモノニ日ヲ着ケント欲スト述ヘ

二、須磨ヨリ英國側ノ計畫ハ支那通貨ノ安定ヲ前提トスルモノナルヘク之ニ付テハ結局「リースロス」ノ幣制借款ノ如キモノヲ必要トセサルヤト借問セル處「カ」ハ「リ」ノ借款ハ甚タ不評ニテ對支借款團等ヲ通シテ行フコトハ

見込ナシ自分ハ通貨安定ノ爲ニモ積極的ニ前述ノ計畫（即チ交通網ノ開發等ニ對スル信用供與）ヲ押進メルコト然ルヘシトノ意見ナリ尙極東ニ於ケル日英經濟協調ニ關シ「バーンビー」ノ使命ハ失敗ニ終レルモ「マクゴワン」ノ報告ハ有益ナル示唆ヲ含ミ居レルヲ以テ自分ハ之ヲ參照シ更ニ大ナル見地ヨリ立案シ度ク日英協調ヲ主眼トルモノナルニ付日本側トハ特ニ聯絡ヲ良クスル積リナリト述ヘ

三、一方支那側トノ話合ニ付テハ「カ」ハ既ニ建設公司又ハ中央信託局ヲ通シテ計畫ヲ實施スル様申出ニ接セルモ成ルヘク既成ノ機關トハ關係ナク遺り度キ意嚮ナル旨並ニ今ノ處支那人トハ要談セス十六日南京ニ赴キ英國大使ト會談シ北平、廣東ノ順ニテ視察ヲ遂ケタル上徐ニ支那側ト接觸スル考ナル旨語レリ

支、北平、在支各總領事、香港、滿ヘ轉電セリ

1024 昭和12年1月20日 在中國川越大使より
ノ田外務大臣宛(電報)
カーラ・パトリックの中國經濟開發方針に關する吳鼎昌觀測について

南京 1月20日後發 本省 1月20日後發

第五〇號
須磨ヨリ

本官十九日吳鼎昌ト會談ノ際英、支經濟關係增進ニ關シ「カーラ、パトリック」ヨリ何等申出アリタルヤト問ヒタル處吳ハ「カ」トハ二回程會談セルカ別段具體的ノ申出ナク察スル處目下支那ノ經濟開發ニ關スル調査ヲ進メ居ル模様ニテ其ノ口吻ヨリ察スルニ材料ノ供給ニ重キヲ置キ先ツ專ニ鐵道次テ礦山、「シッピング」及工場建設等ニ手ヲ着ケントスルモノノ如シト内話セリ御参考迄上海大使、北平、在支各總領事及香港ヘ轉電セリ上海大使ヨリ上海へ轉報アリタシ

ロンドン 2月2日後發 本省 2月3日前着

1025 昭和12年2月2日 在英國吉田大使より
林外務大臣宛(電報)

日英航空連絡は相互主義ならば異存はないが
今のところ日本への航空路線開設を考慮して
いないとの英国外務省回答について

ロンドン 2月2日後發 本省 2月3日前着

第五三號(極祕)

客年往電第六四八號ニ關シ

「カドガン」次官補ヨリ一日附書翰ヲ以テ英國政府ハ若シ

日本政府ニ於テ英國會社ニ依ル日本ノ適當ナル地點ヘノ航空路開設ヲ許可スルニ於テハ主義上日本航空會社ニ對シ香港ニ於ケル着陸便宜ヲ許與スルノ用意アリ尤モ英國政府ハ近キ將來ニ於ケル前記英國側ノ航空路開設ヲ考慮シ居ラサルニ付右ハ差當リ單ニ主義上ノ「コンセツション」タルニ過キサルヘク尙本件前顯條件ノ下ニ何時ニテモ話合ヲ進ムヘキ旨回答アリタリ

香港ヘ轉電セリ

1026 昭和12年2月8日 在英國吉田大使より
林外務大臣宛(電報)

台北・香港間航空連絡に主義上異存がなれば具体的交渉は現地香港にて行うべき旨英國外務省へ申入れについて

ロンドン 2月8日後發 本省 2月9日前着

第六四號(極祕)

貴電第四四號ニ關シ

八日富井極東部長ヲ往訪曩ニ我方ヨリ福岡、臺北間航空路ヲ更ニ香港迄延長致度ク右ニ關シ日本機ノ同地乘入ニ便宜供與アリ度キ旨申入レタルニ對シ英國政府ヨリ右ニ異議ナキ旨回答アリタルト同時ニ相互主義ノ提案アリ我方ニ於テハ主義上之ニ異議ナキモ「カドガン」書翰ニ「サジエスト」セラレタル「日本ニ於ケル適當ナル一地點」ナル字句ニ關シタル今日前掲地點其ノ他着陸便宜ニ關スル細目等ハ現地タル香港英國官憲ト日本總領事トノ間ノ話合ニ移スコト適當ト認メラルルカ右ニ異存ナキヤ尋ネタル處追テ關係官廳

ト協議ノ上何分ノ儀回答スヘキ旨答アリタル趣ナリ尙其ノ

際同部長ハ「インペリアル、エイアウエイ」ニ於テハ既ニ香港迄航空路ヲ延長シタルカ夫レ以上ノ延長ニ關シテハ未タ具體案ナク支那航空會社ニ依ル香港、上海間ノ航空路力

果シテ「ペイ」スルヤ疑問視シ居ル次第ニシテ日本ヘノ航空路延長ニ付テモ着陸地點等ニ關シ何等案アル次第ニアラ

サル旨語リタル趣ナリ

香港へ轉電セリ

1027 昭和12年2月17日 在英國吉田大使より
林外務大臣宛(電報)

日英親善關係増進の觀点から日中關係調整の
具体案を具申するところ川越大使の意見回示

方請訓

別電 昭和十二年二月十七日發在英國吉田大使より
林外務大臣宛第七七号

右具体案

ロンドン 2月17日前發
本省 2月17日後着

(別電)

ロンドン 2月17日前發
本省 2月17日後着

第七七號(館長符號板)

^{**}一、本使ノ所感ヲ以テスレハ日英國交ノ調整ハ支那市場ノ繁榮招來ニ依リ日英通商上ノ利害調節ヲ計ルノ外ニ途ナシ

ト存スル處日本カ現實ニ右繁榮ノ實現保持及增進ニ寄與スルコトハ其ノ東亞ノ安定力タルコトヲ最適切且有效ニ

表現スルノ方法タルヘシ素ヨリ對支政策ニ付御腹案ノアルコトト信スルモ支那ニ重要ナル利害關係ヲ有スル英ヲ

我ニ牽付ケ之トノ充分ナル聯絡ト了解ノ下ニ對支政策ヲ行フカ如キモ其ノ一端ナルヘシ(米ニ對シテモ亦同様ナルヘシ)ト存セラル

三、英國側ノ立場ヨリセハ曾テハ我通商ノ發展力ニ相當恐怖ヲ懷キシモ頃來「クオーター」制適用ノ效果、原料高其ルヘシト存セラル

ノ他ノ原因ニ依リ近來我進出モ幾分鈍リ勝ト見テ舊ノ如キ恐怖ハ感セサルノミナラス「オツタワ」協定ノ作用、

國內景氣等ニ依リ其ノ貿易ノ前途ニ付相當ノ自信ヲ恢復

セル結果對日通商關係ニ於テ焦慮ノ氣分漸次消散シツツ

アルモノノ如シ然レトモ支那ニ於ケル事態ニ關シテハ甚

大ナル憂慮ト關心トヲ懷キ啻ニ我對支政策ニ付不安ヲ有

スルノミナラス

支那自體ノ今後ノ推移ニ關シテモ相當ノ不安ヲ感シ居ル

モノト認メラル即チ一度極東ニ紛糾センカ混沌タル歐洲

政情ノ現狀ニ鑑ミ其ノ支那ニ於ケル權益保護ニ付テハ充

分ノ成算ナカルヘシ是レ英カ今尙日英關係ニ對シ甚大ナ

ル注意ヲ拂フ所以ナリト存セラル

三、他方失業問題ハ近時歷代内閣ノ難問題タリトハ言ヘ保守

黨ヲ主力トスル現内閣トシテハ其ノ色彩上殊ニ之ニ周到

ナル考慮ヲ拂フノ要アリ一時失業者數二百萬ニ垂々トセ

ル頃ニ比スレハ改善ノ跡アルハ(一月二十五日現在百六十八萬九千)看取シ得サルニアラサルモ未タ以テ其ノ成

功ヲ稱フルノ域ニハ達セス從テ現内閣ハ特ニ失業問題緩和ニ資スヘキ一切ノ機會ハ之ヲ逸シ得サル立場ニアリテ

別電第七七號御差支ナキニ於テハ在支大使ニ御轉電ノ上右ニ對スル同大使意見回報セシメラレタシ

貴見ヲ承知スルカ爲便宜上申述フル次第ニテ貴大使ニ於

テ之ト全ク別個ノ御意見御開披^(ラ)トサルルモ素ヨリ苦シカ

ラス)

(一) 日支間ニ詰合ヲ遂ケ支那軍隊所要ノ兵器、軍需品ハ専

ラ日本ニ倚存セシメ現ニ支那力備聘中ノ外國軍事顧問、

教官等ヲ日本軍人ニ依リ代^(ラ)シメ以テ支那軍備強化ノ

指導ヲ計リ蔣介石ハ之ニ對シ反日共産運動ノ彈壓及治

安維持ニ當ル

(二) 日支經濟的提携ニ付充分ナル詰合ヲ遂ケ關稅協定、資

源開發及產業發達ニ關スル互專的^(ラ)協力ヲ爲スコトトシ

(三) 以上(一)及(二)ヲ南京政府カ應諾スルニ於テハ帝國政府ハ

一貫セル方針ノ下ニ蔣政權ヲ援助シ其ノ政府ノ安定ニ

助力ス

(四) 支那ノ治水及交通ニ關シ廣ク日英(米)ノ技術及財力ヲ

利用シ以テ同國市場ノ繁榮ヲ招來スルニ努ムルコト

(五) 以上政策ハ英ノ了解ヲ取付ケ英ヲシテ日支間ノ交渉ノ

側面ヨリ我ヲ援助セシメ又英ト詰合ノ上米ヲモ誘フコ

ト

右ハ極メテ粗雑ナル理想案ニシテ其ノ實行ニハ種々ノ困難

從テ之ニ對應スル苦心苦勞ヲ要スヘキモ右ノ如キ骨子ニテ

(別電)

ロハツハ 3月8日後発

本省 3月9日前着

第一二三號

往電第一一七號ニ關シ

六日附ヲ以テ要點別電第一一四號ノ通り回答越セリ

本電別電ト共ニ香港へ轉電セリ

(別電)

ロハツハ 3月8日後発

本省 3月9日前着

第一二一七號(極祕)

往電第一一七號ニ關シ

六日附ヲ以テ要點別電第一一四號ノ通り回答越セリ

本電別電ト共ニ香港へ轉電セリ

(別電)

ロハツハ 3月8日後発

本省 3月9日前着

第一二一七號(極祕)

往電第一一七號ニ關シ

本使ノ曲^(Formosa)受ケ「ローレン、ハイツシャー」ヲ往訪セル

「ハツワーム」^(Formosa)ニ^(Formosa)英國外交調整ニ對スル英ノ「ジエスチヤー」トシテモ本件ニ關スル日本側希望ヲ容ルコト機宜ニ適セヤト輕ク婉曲ニ申入レタルニ同人ハ實ハ本件關係

H.M.G. are most willing to grant permission for Japanese air line to land Hongkong but they do not wish permission for British line to fly to Formossa in return and would be glad to know that other form of reciprocity Japanese Government are prepared to offer.

There will be no objection to discussion in Hongkong of questions relating to actual landing facilities to be afforded to Japanese aeroplanes and instructions will be sent to Governor of Hongkong in this sense as soon as question of reciprocity is satisfactorily settled.

~~~~~

昭和12年3月8日 在英國吉田大使より  
佐藤外務大臣宛(電報)

香港・台北航路連絡に關し特定地點間の連絡は  
主義上不可能<sup>(ラ)</sup>の英國大藏次官回復<sup>(ラ)</sup>にて

~~~~~

何等カ詰合出來サルヤ幸ニシテ斯ル骨子ニテ日支國交ノ基本原則ニ付詰合ヲ進メルニ於テハ日英ノ對支協調及了解ハ不可能ニアラサルノミナラス進テ日英通商一般關係ノ調整ニ迄達シ得ヘシト存スル次第ナリ

~~~~~

1028 昭和12年3月8日 在英國吉田大使より  
佐藤外務大臣宛(電報)

日英航空連絡に關する英國政府回答について

別電 昭和十二年三月八日発在英國吉田大使より佐藤外務大臣宛第一二四號

右回答

ロハツハ 3月8日後発

本省 3月9日前着

第一二三號

往電第一一七號ニ關シ

六日附ヲ以テ要點別電第一一四號ノ通り回答越セリ

本電別電ト共ニ香港へ轉電セリ

(別電)

ロハツハ 3月8日後発

本省 3月9日前着

第一二一七號(極祕)

往電第一一七號ニ關シ

本使ノ曲<sup>(Formosa)</sup>受ケ「ローレン、ハイツシャー」ヲ往訪セル

「ハツワーム」<sup>(Formosa)</sup>ニ<sup>(Formosa)</sup>英國外交調整ニ對スル英ノ「ジエスチヤー」トシテモ本件ニ關スル日本側希望ヲ容ルコト機宜ニ適セヤト輕ク婉曲ニ申入レタルニ同人ハ實ハ本件關係

航空委員會ハ同人自ラノ主宰スル所ニ係リ Air Way Universal ナル<sup>(ラ)</sup>キヤノリ付國際航空聯絡ニ關シテハ航空其ノヤノノ性質上特定地點ヲ單位トセヤス國ト國トヲ單位トスヘシトノ方針ニテ他國トノ間ニ交渉シ來レル關係上今更日本關係ニ付テノミ特定地點間ノ相互主義ヲ認メ難シ差當リノ處日本向航空路設定ノ意図英側ニナク日本航空ノ香港聯絡ハ英國ノ歡迎スル所ナリ然レ共以上ノ方針ニ對シテハ日本政府ニ於テモ航空ノ性質ニ鑑<sup>(ラ)</sup>充分ノ御了解ヲ希望ス

ト述<sup>(ラ)</sup>タル趣ナリ

1030 昭和12年3月10日 在英國吉田大使より  
佐藤外務大臣宛(電報)

日英親善關係増進のため日中關係の改善に努  
力しわが方対中政策の明朗化および徹底化を

図るべき旨意見具申

ロンドン 3月10日後発  
本省 3月11日後着

<sup>(1)</sup>特第一七號  
日英關係ニ付テハ豫テ貴意ノアル所モ承知致シ將又本使着任以來ノ交渉經過ハ既ニ貴聞ニ達セリト存スルモ一應卑見電稟ス

一、日英間ノ重要問題ハ支那及通商關係ニシテ此ノ兩關係ノ調整成ラサル限り日英國交ノ改善六ヶ敷キモ幸ニモ亦右兩關係ハ其ノ實質相互關聯シ此ノ間ノ彼我利益ノ按排ニ依リテ親善關係ヲ確立シ依テ以テ帝國外交ノ基調タラシムルコト敢テ六ヶ敷カラサルヲ確信ス

二、英力其ノ在支權益保護並ニ極東將來ニ對シ深甚ナル關心ヲ有スルハ明カナルカ歐洲政情ノ現狀ニ顧ミ我ヲ敵ニシテハ成算ノアルヘキニアラス是我國近來ノ行動ニ對シ幾

多ノ不快ヲ感スルニ拘ラス尙親日論ノ英政治家別ケテ保守黨領袖ノ腦裡ニ往來スル所以ナリ  
三、英政府別ケテ保守黨政治家ノ終始念トスル所ハ失業問題ナリ彼等カ英國產業ノ爲ノ新市場ト最モ日指スモノハ南米及支那ニシテ

後者ハ其ノ<sup>(2)</sup>曾<sup>(曾)</sup>囑目スル所然ルニ「リースロス」ハ其ノ渡支以來支那ノ繁榮ハ日支關係ノ改善ニ俟ツヘク日支關係ノ改善ヲ見サル限り對支投資ノ安全期スヘカラスト論

斷シ英國政府別ケテ「ネビル、チエンバレン」ヲ動カセリト存セラル「チ」ノ親日論ハ其ノ獨自ノ主張モアルヘキモ「リ」ノ所論ニ依リテ確信ヲ更ニ強メタルモノアルヘシ

四、支那ノ眞ノ繁榮ニ依リテ日英通商關係ノ緊張ヲ緩和スヘク日英ノ協力ニ依リテノミ眞ノ繁榮ヲ招來シ得ヘシトノ本使ノ所論ハ偶々「リ」ノ所見ト一致セルカ爲メニ「チ」ノ支持ヲ受クルニ至レルモノト思ハル

五、幸ニ帝國政府カ四、ノ卑見ヲ是認セラルルニ於テハ日英國交ノ調整ハ支那繁榮ニ日英協力スルノ具體案ノ成否ニ依存スヘキ處右日英協力ハ日支國交ノ回復ヲ前提トシ而シ

1031 昭和12年3月11日 在廣東中村總領事より  
佐藤外務大臣宛(電報)

華南における英中經濟提携の中國側具体案につき情報報告

広東 3月11日後発  
本省 3月12日前着

<sup>(1)</sup>第一一〇號

六、日支交渉最近ノ經緯ハ深クハ存セサルモ蔣介石力排日共產ノ排撃ニ同意シ日支間ニ拙電第七七號ノ如キ軍事協約成立ニ同意シ我モ亦誠意ヲ以テ蔣政權ノ確立、中央政府ノ強化ヲ支援スルノ途ニ出て而シテ支那ノ分裂ヲ誘ヒ若クハ我自ラ領土的野心ヲ有スルカノ疑惑ヲ他ヲシテ抱カシムルカ如キ餘地ナカラシムルニ於テハ日支關係ノ回復必スシモ至難ト言フヘカラスト存ス  
七、我對支政策ノ明朗且徹底スルニ於テハ英米其ノ他ノ了解ヲ遂クルノ難カラサルノミナラス英米モ了解シ得サル對支政策ハ支那サヘモ承服セシメ得サルヘク六、所載ノ「ラン」ニ於ケル對支條件ハ本使ハ少クモ英ノ了解ヲ取付ケ得ルノ所信アリ  
八、對支問題ニ於テ今日米ヲ除外スヘカラサルハ申ス迄モナシ然レトモ今猶支那事情ニ暗キ米ノ國情ヲ以テセハ先ツ英ノ了解ヲ取付ケ然ル後米ニ及フヲ可トスヘシ

辨期間ヲ三十年トス同期間内ニ於テハ英國側ハ鑛山ニ專賣權ヲ有ス

三、目下英國側ニ對シ

(一)合浦、欽縣、防城ノ鐵鑛  
(二)寶安、惠陽ノ石炭、鐵鑛

(三)茂名、澄邁、始興ノ石油鑛

(四)崖縣、臨高ノ石炭、鐵鑛

ノ鑛區開發ヲ持掛ケ居レリ

支那側ハ鑛山開發基金トシテ五箇年間毎年二百萬元支出ス

(四)海南島方面ニ於テハ護謨事業、儋縣ノ開發、澄邁鑛等

ノ鑛區開發及西沙島ノ漁業、鑛礦ノ開發等ニ對シ英支共同シテ總額二千萬元ヲ投資スル計畫ニシテ内一千萬元

ヲ外資ニ仰クヘシ

ヲ要旨トスルモノノ如クナルカ英國側ノ實(地)調査ノ上ナラテハ合作ノ成否確定セサル趣ニテ本案ノ外ニ協議ニ上リ

ツツアルモノアリヤ否ヤ查察中ナリ向本月五日來廣ノ英國大使、信用補償局代表モ十日離廣北上セリ

支、上海大使、北平、在支各總領事、滿、汕頭、臺灣外事課長へ轉電シ香港へ暗送セリ

支ヨリ南京へ、上海大使ヨリ上海へ轉報アリタシ

支ヨリ南京へ、上海大使ヨリ上海へ轉報アリタシ

1032 昭和12年3月24日 在中國川越大使より  
佐藤外務大臣宛(電報)

1033 昭和12年4月9日 在上海河相總領事より  
佐藤外務大臣宛(電報)

孔祥熙は英國訪問時に中英借款の成立を画策  
しているとの情報報告

別電 昭和十二年四月九日発在上海河相總領事より

佐藤外務大臣宛第一〇五号

右借款のための主要担保物件

上海 4月9日後発

本省 4月10日前着

第一〇四號

孔祥熙赴英ニ際シ對英借款ヲ狙ヒ居ルトノ情報ハ各方面ニ

行ハレ居リ(一日上海同盟電ハ二千萬磅、擔保統稅及關稅

ト傳ヘタルハ御承知ノ通り)右ハ同人出發前中央銀行改組

農民銀行ノ發券統制豫算制度ノ改善英國側關係借款ノ整理

等對英「ゼスチユア」ヲ整ヘタル一方統稅ノ引上ニ依リ財

源捻出ヲ試ミタル點ヨリ見ルモ肯定シ得ラル處ナルカ今

日迄主ナル情報左ノ通り(發表見合ハセラレ度シ)

(一)三月三十一日「ホーリパツチ」ハ館員ノ質問ニ對シ孔カ  
對英借款ノ計畫ヲ有シ「ホ」ニ內相談セルコトヲ肯定ス

英國皇帝戴冠式に參列する特使孔祥熙の隨員

決定について

南京 3月24日後発  
本省 3月24日後着

第一九九號

往電第一九四號ニ關シ

英國皇帝戴冠式參列特使孔祥熙ニ隨行渡英スル人員ハ二十

三日左ノ通り決定シタル由

行政院祕書長翁文灝、鐵道部次長曾養甫、現上海海關監督諸昌年、前關務署長張福連、國際貿易局長郭秉文、總稅務司「メーズ」外十一名

尙孔ハ新聞記者ニ對シ自分ノ留守中中央銀行及財政部ハ夫々副總裁及政務次長ヲシテ處理セシムヘク英國ニ於ケル式典終了後ハ約二箇月ヲ利用シテ歐洲各國ノ建設狀況ヲ視察スル豫定ナル旨述ヘル趣ナリ

上海大使、北平、在支各總領事へ轉電セリ  
上海大使ヨリ上海へ轉報アリタシ

上海大使ヨリ上海へ轉報アリタシ

上海大使ヨリ上海へ轉報アリタシ

上海大使ヨリ上海へ轉報アリタシ

上海大使ヨリ上海へ轉報アリタシ

1032 昭和12年3月24日 在中國川越大使より  
佐藤外務大臣宛(電報)

1033 昭和12年4月9日 在上海河相總領事より  
佐藤外務大臣宛(電報)

孔祥熙は英國訪問時に中英借款の成立を画策  
しているとの情報報告

別電 昭和十二年四月九日発在上海河相總領事より

佐藤外務大臣宛第一〇五号

ルト共ニ「ホ」トシテハ關稅鹽稅共先順位ノ内外債償還ニ充テラレ擔保力充分ナラス(支那側ハ頻リニ鹽稅增收

ヲ誇ルモ現實ニ中央ニ歸屬スル稅收ニ付テハ何人モ知ラ

サル狀態ナリト述ヘ統稅ノ擔保力ニ付テハ言ヲ外ラセリ)

且倫敦ニ於テ起債スルニハ借款團ノ問題トセサルヘカラ

サルコトヲ指摘シ居タル由ナリ

尙「ホ」ハ最近同盟松本ニ對シ例ノ獨支「バータ」協定

ノ張本人「クライン」カ孔ト同船セルコト並ニ孔ノ滯獨

豫定カ長キコトヲ指摘シ獨逸側トノ間ニ「クレヂット」

協定ノ意嚮アルヤフ諷刺セル趣ナリ(右ハ多分ニ反對宣傳ノ意味ヲ含ムモノト認メラル)

(二)四月八日田尻王克敏ニ面會ノ際王ハ國民政府ハ此ノ際鹽

稅、統稅及煙草稅引上、綿紗ニ關スル新稅ノ設定等ニ依

リ(煙草稅カ葉煙草稅ナリヤ菸酒稅ナリヤ不明ニテ又新

設稅ニ付テモ同様ナルモ聞込ノ儘)一億元ノ增收ヲ得ヘ

ク右ヲ引當ニ對英六千萬磅ノ借款ヲ商談スヘキ旨孔出發

前中政會ニ於テ決定セル(但シ棉花及綿紗ハ日本側ノ利害關係深キ爲決定ヲ留保セリ)旨並ニ右ハ諸般ノ經濟建

設並ニ幣制維持ノ爲ナル旨附言セル趣ナリ

## (三)尙他ノ情報ニ依レハ借款額一億元支拂期限十五ヶ年以内

擔保所得税、鹽稅增收、統稅增收ナリトモ傳ヘラル

<sup>(3)</sup>以上ノ諸情報ヲ綜合スルニ支那側カ財政上又ハ或種ノ建設事業(國防施設ヲモ含ム)ノ爲對英借款商議ノ意嚮アルハ略々疑ナキ所ニシテ其ノ金額擔保物權等ハ明カナラス又英國側トシテモ直ニ之ニ應スヘシトモ思ハレス殊ニ支拂財源物的擔保立二人的の保證(海關ニ於ケル外人招聘制度ノ擴充等)ヲ要求スルハ勿論更ニ借款團規約ニ關聯スル問題解決(各國團體ニ參加ヲ勸誘スルカ廣梅鐵道乃至ハ滬杭甬完成借款ノ例ニ倣フカ)ノ要アルヘシト存セラルモ何レニスルモ孔ノ態度就中英國ニ於ケル行動ニ付テハ倫敦其ノ他ニ於テモ充分監視ノ要アリト認メラル

因ニ本件ニ關聯シ關稅、鹽稅、統稅其ノ他主ナル擔保物件ニ關スル極ク一應ノ計數爲念別電第一〇五號ノ通り  
別電ト共ニ支、北平、在支各總領事、滿ニ轉電セリ

## (別 電)

上海 4月9日後發  
本省 4月9日後着

## 第一〇五號

## 一、關稅

二十五年度海關統計ニ基ク關稅收入三三四、六三三、七九二元ニシテ左シタル増減ナシトスレハ内外債支拂(團匪賠償金及綿麥整理借款ヲ含ム)ニ當分年二億二千萬元程度ヲ要スルヲ以テ(尤モ最近ノ鐵道借款其ノ他ノ整理協定ニ基キ場合ニ依リ關稅ヨリ支拂補<sup>(備)</sup>頗ノ要ヲ生スヘキモ左シテ巨額ニアラス)右ノ外海關經費ヲ收入ノ一割約三千萬元ト見ルモ毎年七千萬元位ノ剩餘アルヘシ

## 二、鹽稅

稽核總所報告ニ依レハ二十五年度收入ハ二億五百餘萬元ニテ右カ其ノ儘中央手取額トハ思ハレサルモ近似增收ハ事實ナル如ク一方債務支拂ハ同年度千四百三十餘元ナリシヲ以テ今後湖廣借款ノ整理ニ伴ヒ其ノ元利支拂ハ相當增大スヘキモ可ナリノ剩餘ヲ殘スモノト認メラル

## 三、統稅

二十三年度下半期及二十四年度上半期ノ實績(紡績同業會調)ニ依レハ合計一億二千萬元弱ナルカ本稅ヲ擔保トスル綿麥借款(年額約三百萬米弗ノ「サービス」ヲ要ス)

支、北平、天津へ轉電セリ

香港乗入れの促進を主とした日英航空連絡に

トシテ比較的確實ニ源泉徵收可能ナルモノ千一、三百萬元ト見レハ左シテ過大ニアラサルヘキカ

元ト見レハ左シテ過大ニアラサルヘキカ  
四、所得稅

昭和12年4月17日 在英國吉田大使より

佐藤外務大臣宛(電報)

関する對英申入れ案につき請訓

別 電

昭和十二年四月十七日発在英國吉田大使より

佐藤外務大臣宛第二三四号

右申入れ案

ロンドン 4月17日後發

ロンドンにおいて公債発行の見込みについて

広梅鐵道建設公債に関する英中交渉がまとまり

十四日張競立ハ南京出張中ノ館員ノ質問ニ對シ廣梅鐵道公

債二百七十萬磅ノ件ハ既ニ南京、上海方面ニ於ケル英支當事者間ニ話シ纏り右公債ハ倫敦ニ於テ發行セラルヘシト語レリ更ニ確メノ要アルモ不取敢

1034 昭和12年4月15日 在上海吉岡總領事代理より

佐藤外務大臣宛(電報)

支那交渉がまとまり

上海 4月15日後發

本省 4月15日後着  
第一二八號

新嘉坡經由日印、日蘭等幾多ノ航空路ヲ想像スヘク從テ早

晚、協定締結ノ要アルヘキニ付此ノ際原則問題ハ後廻ニシ不取敢香港乘入レ促進ヲ主トシ別電第二三四號ノ通り申入方實際的ナルヘク差支ナキヤ御回電アリ度シ

本電別電ト共ニ香港へ轉電セリ

(別電)

ロハムヘ 4月17日後発

本省 4月18日前着

第111四號

I am in receipt of communication from Tokyo to effect that

(1) Japanese government are ready to consider question of Anglo-Japanese air connections on basis of reciprocal concessions and (2) Japanese Government are ready to grant permission for British air line to operate to appropriate point in Japan subject to further discussions on definite proposal.

On above understanding I should be grateful if you would be good enough to take necessary steps for working arrangement to be made for proposed air line connection between Hongkong and Taihoku.

~~~~~

1036 昭和12年4月21日 佐藤外務大臣より
在英國吉田大使宛(電報)

日英航空連絡に関する対英申入れ案につき修

正方回訓

本省 4月21日発

第一五二號(極祕)

貴電第1111號ニ關シ

貴電第一二一四號ノミニテハ貴電第一二一四號英國側來翰ノ次

第モアリ後日解釋上ノ問題起リタル際文理上ハ日本カ内地開放ヲ約セルニ對シ英國側ハ香港乘入ノミヲ約セルモノトモ解セラル虞アリ、然ルニ今回始メテ我方ニ於テ内地開放ノ原則容認ヲ決意スルニ至レルハ將來ノコトヲモ考慮ニ入レ此ノ機會ニ英國側ヲシテ主義上英國全体ヲ開放スルノ原則ヲ確約セシメ置カントヲ期シタルカ爲ナリ(即チ當初電報ノ通り香港、臺北間航空連絡ノ急速實現ハ我方ノ最モ希望スル所ニシテ内地開放等主義ノ問題ニ觸ルコトナクシテ右實現セハ之ニ越シタルコトナキモ英國側力主義上臺灣以外ヘノ乗入權ヲ主張スル以上我方トシテモ英國側ヲシテ同様内地開放ノ原則ヲ確約セシムルコト絕對必要ナル譯ナリ)

以上ノ考慮ハ我方トシテ忽ニシ得サル問題ナル處貴電第二二四號前段ノ書振ハ此ノ點必シモ明確ナラス(貴電英文案譯ナリ)

上海 4月28日後発
本省 4月28日夜着

上海 4月28日後発
本省 4月28日夜着

第一八六號(極祕)

「ケントウエル」カ南京ニ於テ王寵惠ト會談セル結果ニ關シ田尻ヘノ内話左ノ如シ

「日本トハ政治問題ノ先決ヲ欲スルモ冀東政權、塘沽及上
海停戰協定等ヲ如何ニ取扱フヤニ關シテハ孔祥熙ト英國
政府トノ會談ノ結果ヲ聽ク迄ハ何事モ言フヲ得ス

三、滿洲國ニ關シテハ支那ハ實力ナキヲ以テ之カ返還ヲ要求
スル考ナシ

三、英國大使ニ對シ英支同盟締結ヲ提議シタルハ事實ナルモ
英國ハ日本ヲ敵トスルヲ欲セバ但シ大使ハ經濟的援助ニ
關シテハ確言ヲ與ヘ居レリ

四、治外法權撤廢問題(往電第一二三號參照)ニ關シ支那ハ對
日交渉上列國ノ援助ヲ必要トスルヲ以テ列國ト對立スル
カ如キハ避ケサルヘカラス從テ今直ニ之カ撤廢ハ提議セ
サルモ日支問題調整次第直ニ條約改訂ヲ提議シ度キ所存

ナリ(此ノ際王ハ支那ハ現在對日關係上英國ノ援助ヲ必
要トスルヲ以テ新聞ニ對シ英國ニ對シ非友誼的ナルカ如

ハ往電第一四八號ヲ以テ申進メタル書翰ノ交換ニ到達セム
カ爲ノ差當リノ申入ニシテ最後的ノモノニ非ストハ存スル
モ當方トシテハ將來ノ「ヨーツトメント」トナラムコトヲ
惧ルル次第ナリ)就テハ別電第一五四號(「ツーリオン」)^(註脚)ト
ノ關係上「アリティッシュユエムパイヤ」ナル字句ニ難色ア
ル場合ニハ適當調整セラレ差支ナキモ此ノ場合ト雖モ「ユ
ナイテッドキングダム」ノ外新嘉坡及印度ニハ主義上飛行
シ得ル丈ノ餘地ハ之ヲ存シ置カレ度シ尤モ我方トシテハ目
下ノ所香港以西ヘノ飛行ハ考ヘ居ラス)ノ通り申入レラル
ルコトト致度尙貴案後段ノ點ハ之ニテ差支ナキモ先ツ別電
主義ノ問題トハ別ニ申入レラルコト却テ問題ヲ簡明ナラ
シムル所以カト存セラル。

別電ト共ニ香港へ轉電セリ

1037 昭和12年4月28日 在上海吉岡總領事代理より
佐藤外務大臣宛(電報)

英國に対し同盟締結を提議したことなど中国
の对外政策に関する王寵惠内話情報について

キ記事ノ掲載差控方指示シ置キタルニ付「ケ」ニ於テモ
注意アリ度シト言ヒタル由)

吾、蘇聯邦ト現在同盟關係ニアラサルモ支那ハ對日關係上蘇

聯トノ友好關係ヲ欲スルモノニテ且下孫科ト蘇聯大使ト

話合中ナリ(本電發表セサル様致度シ)

支、北平、天津へ轉電セリ

~~~~~

1038

昭和12年4月30日

佐藤外務大臣より  
在英國吉田大使、在米國齋藤大使宛  
(電報)

英國吉田大使、在米國齋藤大使宛合第二六五号

日中關係打開のためには中國をめぐる國際關係  
の改善が必要であり英國との協調に関する

具体案検討中について

別電 昭和十二年四月三十日発佐藤外務大臣より在

英國吉田大使、在米國齋藤大使宛合第二六五号

日中關係打開に多大の困難を予想させる中國

側要路の外交政策意見

本省 4月30日発

合第一六四號(極秘)

一、支那ニ於ケル國家主義的運動力緩遠事件及西安事件等ヲ  
楔機トシテ益々熾烈トナリ來レルコト並ニ南京政府カ右  
運動ヲ巧ニ利用シ對日强硬方針ヲ標榜スルコトニ依リ着々  
自家政權ノ強化ヲ計ルト共ニ支那統一ノ實績ヲ舉ケ居ル  
コト(南京政府カ抗日精神ノ強化ト相俟チ地方政權ノ中  
央化、幣制改革ニ依ル財政ノ建直シ、外資ニ依ル建設的  
事業ノ促進等ニ依リ國內統一ノ方向ニ顯著ナル歩ヲ進メ  
居ルハ西南問題ノ解決、西安事件ノ經緯等ニ徵スルモ看  
過シ得サル事象ト云フヘシ)等ニ關シテハ既ニ御承知ノ  
通ニテ現ニ成都事件ニ關聯スル先般ノ南京交渉ニ於テモ  
國民政府ハ日支國交調整ニ關聯スル支那側ノ希望トシテ( )  
塘沽及上海停戰協定ノ取消( )冀東政府ノ解消( )北支自由  
飛行ノ停止( )密輸ノ停止及支那側取締ノ自由恢復( )察東  
及綏北ニ於ケル偽軍ノ解散等ヲ要求シ來レル始末ナル處  
(昭和十一年度東亞局執務報告參照)王寵惠ノ外交部長就  
任ト共ニ治外法權ノ撤廢其ノ他支那民衆ノ國權恢復熱ハ  
一段ト拍車ヲ加ヘラレタル模様ナリ。

二、此間ニ處シ從前ニ於ケル我對支政策ハ動モスレハ支那側  
ニ無用ノ誤解乃至疑惑ヲ與ヘ、爲ニ支那側ヲ驅リテ英露ニ  
テ目下具體案考究中ナリ

フル要アリ殊ニ支那ニ最モ深甚ナル利害關係ヲ有スル英  
國トノ間ニ何等カ具體的ニ話合ヲ進ムルコト肝要ト思考  
シ居ル次第ナルカ在英大使屢次ノ電報ニ依レハ英國側ト  
シテモ依然支那ニ關シ日英協調具現ノ希望ヲツナキ居ル  
モノト觀察セラルニ依リ支那側トノ開談ニ當リテハ右  
ト併行シ日英間ニ於テモ具體的ニ話合ニ入り度キ所存ニ  
テ目下具體案考究中ナリ

以上貴大使限り内密ノ御含迄  
本電並ニ別電宛先 英、米

別電ト共ニ英ヨリ在歐各大使及壽ヘ、米ヨリ伯ヘ暗送アリ  
タシ

调整ニ進ミ度キ意向ニシテ往電合第一六〇號對支方策ノ  
趣旨亦右ニ外ナラス尤モ前記支那側ノ空氣並ニ支那民衆  
ニ對スル國民政府從來ノ立場等(張群及王寵惠ノ川越大  
使ニ對スル談話要領別電合第一六五號ノ通り)ニ鑑ミ兩

國關係打開ニ關スル今後ノ日支交渉ニハ幾多ノ難關アル  
モノト想像セラル

合第一六五號(極秘)

本省 4月30日後6時40分發

(別電)

本省 4月30日後6時40分發

合第一六五號(極秘)

一、張群ノ談(四月六日)

「日支問題ハ之ヲ四種ニ分ツコトヲ得ヘシ第一ハ滿洲問

題第二ハ上海及塘沽停戰協定撤廢問題第三ハ北支ニ於ケ

ル非合法的既成事實ノ是正問題(例へハ冀東政府、北支

國關係ノ如キ支那ノ對日態度ハ我國ノ當面セル全般的  
立的狀態ニ因由スル所少カラス、日支國交調整ノ爲ニハ  
支那側トノ交渉ト併行シテ我對列強關係ノ調整ニ意ヲ用

自由飛行)第四ハ今後兩國間ニ何等新タナル「フリクシヨン」ノ生スルコトヲ避ケル問題ナルカ右ノ中第四ノ點ハ日本側ニ於テモ十分自重セラルコトヲ希望スルト共ニ支那側ニ於テモ進テ新タナル紛糾ヲ釀スカ如キコトヲ避ケル必要アリ第一ノ滿洲問題ハ日支兩國ノ各々ノ立場上之ヲ解決スルコトハ困難ナルニ付此ノ際本問題ヲ持出スコトハ面白カラス第三ノ點ハ國交調整上今後逐次解決思惟セラレ自分ニ於テモ其ノ機會アラハ努力シ度キ積リナルカ日本側ノ一部ニ於テハ北支問題ヲ解決スル時ハ支那ハ直ニ滿洲問題ニ迫リ來ルヘントノ觀察ヲナス者アル模様ナルカ右ハ全ク杞憂ニシテ第三及第二ノ問題解決ニ伴ヒ場合ニ依リテハ滿洲問題ヲ今後持出ササル様ノ話合ヲ着ケ得ルコトモ不可能ナラサルヘシト考ヘラル」

## 三、王寵惠ノ談(四月七日及十九日)

「兩國ノ國交調整ハ先ツ相互ノ立場ヲ理解シ彼我ノ希望ヲ知悉スルコト先決條件ナルヲ以テ若シ日本視察團ノ來華ニ依リ日本側ニ於テ支那側ニ對スル新シキ認識ヲ持ツニ至ラハ右ハ國交調整ノ第一段階ヲナスモノナリ佐藤大

## りについて

南京 5月6日後発  
本省 5月6日夜着  
第三〇四號

<sup>(1)</sup>五日當地ノ新聞ハ一齊ニ日英折衝問題ニ關シ論評ヲ掲ケタル處要旨左ノ通り

## 一、中央日報

日英談判ノ内容ハ判明セサルモ今後ノ日英關係ノ變化竝ニ其ノ支那ニ與フル影響ニ付テハ充分注意ヲ拂ハサルヘカラス抑々英國ノ極東政策ハ十九世紀以來ノ一大目標ニシテ精密ナル計畫ト忍耐トニ依リ其ノ目的ヲ達成スルヲ常トン最近日本カ外交調整ヲ唱へ出セルヲ好機トシテ談判ヲ開始シタルモノニシテ之ニ依リ巧ニ何等カノ代償ヲ擗ムニ至ルヘシ然レトモ現在ノ支那ハ如何ナル外國ニ對シテモ其ノ特殊地位又ハ勢力範圍ナルモノヲ認ムル能ハス自力更生ヲ信條トシテ復興ニ當リツツアルヲ以テ今次ノ日英談判ニ於テモ支那ヲ以テ交渉ノ目標トスルナカラシコトヲ希望シ日支問題ノ解決ハ依然トシテ我國人自身ノ努力ニ俟ツノ覺悟ヲ有セサルヘカラス

1039

昭和12年5月6日 在中國日高臨時代理大使より  
佐藤外務大臣宛(電報)

二、南京日報  
中国を外交交渉の目標としないよう希望する  
など日英関係調整交渉に関する中国紙報道振

<sup>(2)</sup>三、新京日報  
日英談判カ新聞ノ傳フル如キ内容ヲ有スルモノトセハ全ク中國ヲ分割シテ日英兩國ノ植民地ト爲スニ等シク英國ハ自國ノ極東外交政策ノ傳統並ニ英支ノ友好關係ヲ破壞スルノミナラス國際聯盟規約及華府條約ヲ破壞スルモノナルヲ以テヨモヤスル無智ナル行動ニ出テサルヘシ尤モ今回ノ倫敦談判ハ日本ノ大勢及英國ノ態度ニ鑑ミ之ニ依

リ日英間ノ不安ヲ一掃シ進テ海軍問題、太平洋防備問題並ニ對支投資及密輸取締問題等ニ新シキ解決ノ途ヲ開クヤモ測ラレス若シスル情勢トナラハ右ハ太平洋全般ノ問題ナルヲ以テ當然米國及蘇聯ヲ參加セシムヘク支那モ亦之ニ參加スルヲ要シ以テ太平洋集團安全保障ニ關スル條約ヲ成立セシムヘシ

北平、在支各總領事へ轉電セリ

1040 昭和12年5月7日 在中國加藤大使館一等書記官より  
佐藤外務大臣宛(電報)

日英關係調整交渉は両国が単独で對中經濟侵略の野望を達成し得ないため共同合作を協議するものと中國紙論説について

北平 5月7日後発  
本省 5月7日夜着

⑤  
七日ノ北平晨報ハ日英交渉ト對支投資ト題シ孔祥熙既ニ倫敦ニ到着シ日英間亦對支合作ノ會談行ハレ居リ今ヤ日、英、支三國間ノ錯綜セル關係ヲ調整スル好機到来セルモノト言

太平洋不可侵條約の成立は望ましいが日英交渉が中國を外交交渉の標的とするのであれば反対するとの中國紙論説について

上海 5月18日後発  
本省 5月18日夜着

第二六〇號

<sup>(1)</sup> 第二七九號(極祕)

日英合作又ハ太平洋不可侵條約締結ニ關シ十八日ノ大公報ハ日英合作ハ日本側ノ大讓歩ヲ必要トシ不可侵條約ノ締結ハ日本國內ノ指導的勢力ノ國際情勢ニ對スル認識如何ニ係

リ居リ何レモ成功覺束ナシ又今日ノ支那ハ列國間ノ外交ノ標的タルヲ許ササルヲ以テ日英交渉カ支那ヲ對象トスルモノナラハ反對ス

尙不可侵條約成立ハ希望スルモ若シ九國條約ノ如ク支那ノ保全ヲ標榜スルモノナラハ國家ノ運命ヲ國際條約ニ假託スルモノナルヲ以テ許容シ得サル所ナリト論シ時事新報民報モ同様ノ趣旨ニテ不可侵條約ニ比シテ期待ヲ懸ケス時機尙早ナリト論シ居レリ

支、北平へ轉電セリ

1041 昭和12年5月18日 在上海岡本總領事より  
佐藤外務大臣宛(電報)

(一) 對外的ニハ外資輸入ハ支那ノ利益ノ爲且支那獨自ノ計畫ノ下ニ之ヲ使用シ外國ノ拘束ヲ受ケス又各國カ單獨或ハ共同シテ支那ト商議スルハ可ナルモ列強間ニ於テ對支投資ニ關シ協定ヲ結フコトニハ反対ス

(二) 對內的ニハ建設豫算ト經常豫算ヲ劃分シ外資ハ建設方面ニノミ使用スヘキナリ

何レニスルモ支那トシテハ列強競爭ノ局面ヲ利用セハ或ハ自救自興ノ目的ヲ達成シ得ヘシト論シ居レリ

支、上海、天津へ轉電セリ

1042 昭和12年5月25日 在英國吉田大使より  
佐藤外務大臣宛(電報)

中國大使館において孔祥熙と日中關係改善に關する意見交換実施について

ロンドン 5月25日前發  
本省 5月25日夜着

「イーデン」ハ本使ニ新聞側ノ誤報ヲ惧レ種々ノ取沙汰ヲ未然ニ防ク趣旨ニテ Foreign Office ヲシテ簡單ニ發表

セシメ置キタリト洩ラン又陪席ノ Craigie ハ日本側態度緩和ノ此ノ際支那側カ其ノ常套手段ニ依リ圖ニ乗り強ク出ルカ如キコトナキ様英側トシテハ孔ニ對シ相當 impress シタルカ如シト語レリ場所柄モアリ兩人共餘立入りテ話ヲ本使ニ爲ササリシモ日支關係ノ速ナル恢復方ニ付外相等ハ孔ニ對シ助言シタルカ如キ印象ヲ得タル

カ一二日支那大使ヨリ孔ニ引合ハセ度シトテ Tea ニ招キヲ受ケタリ本使ハ新聞ノ取沙汰ヲ虞ルノ理由ヲ以テ

應辭退シタルニ改メテ大使自ラ是非ニト電話シ越セルヲ  
以テ支那大使館へ赴ケル處同大使ヲ交ヘ孔ト約一時間半

ニ亘り會談ス

<sup>(2)</sup> 孔ハ極メテ多忙ニ見受ケタルニ拘ラス右ノ如ク比較的長

時間打解ケタル態度ニテ日支關係ニ付種々語り出テ日支

關係複雜ニシテ其ノ恢復ニハ前途難關ナキニアラストテ

日支既往ノ事蹟ヲ論シ出テタルニ付本使ハ今更過去ノ功

罪ヲ論スレハ彼我ノ間議論盡キサルヘク現狀ニ即シテ大

局ヨリ局面打開ノ建設的方策ヲ考フルコソ政治家ノ立場

ナラント言ヘルニ孔ハ率直ニ之ヲ肯定シ近時日本邊ヨリ

其ノ對支政策轉換ノ報アリトテ我軍部ノ意嚮等頻リニ問

ヒ立テタルニ付本使ハ我對支政策ハ時ニ形ニ變化アリト

雖其ノ根底ハ親善ニアリ親善ニハ文武意見ノ相違モナシ

又はレ日支親善ノ關係ニシテ満洲、上海事變空發シテ意

外ノ曲折ヲ爲セルモ素ヨリ一時ノ變調ニシテ今ヤ日支關

係常道ニ復セントシツツアリ此ノ際支那政治家ハ須ク我

ニ呼應シテ極東ノ安定ニ協力スヘキナリト言ヘルニ孔ハ

轉シテ日英間如何ナル話合ヲ爲セルヤト尋ネタルニ付

general situation ヲ話合ヒ來レルノミ

廣 東 5月29日後発  
本 省 5月29日夜着

第一九七號

貴電合第三二二號ニ關シ(英國大鵬灣返還ノ噂ニ關スル件)

英國ト支那トノ間ニ英國側ノ希望ニテ香港防衛ノ爲ニ北ハ

汕頭口南澳島ヨリ南ハ海南島ニ至ル廣大ナル地域内ニ於テ

何等カノ形ニ於テ支那側ノ協力ヲ求ムル話合進行中ナルコ

ト耳ニシタルコトアリ廿八日更ニ支那側ニ質シタル處未タ

何等結論ニハ達シ居ラス右案中ニハ大鵬灣ヲ還付スルカ如

キコトハ含マレ居ラス寧ロ英國側ハ之カ確保ヲ希望シ居ル

趣ナリ

尚往電第一四五號末段前安南總督 Varenne ノ來訪トモ關係

ヲ有シ佛國モ佛領印度支那防禦ノ爲何等力關係アル趣ナリ

本件ハ其ノ話的確ニ突止メ難ク本官ニ於テモ如何ナル程度

ニ信ヲ措キ得ヘキカ確信ナキ次第ナルカ往電第五六號所報

ノ余漢謀ヨリ李漢魂宛密電ニ於テ中央ヨリ航空經費ノ支給

充分ナラサル爲屢香港方面ニ信ヲ失シタルコト大ナリト述

ヘ居タル事實アリ其ノ他斷片的ニ入手シタル情報ニ依リテ

南支ニ於テ英支ノ間ニ航空ニ關シ何等カノ話合アルニアラ

日支關係復舊シ極東ノ安定繁榮ハ軒テ歐洲其ノ他ノ安定  
ヲモ招來スヘシトノ見地ヨリ話合ヒツツアリト漠然ト答  
ヘタル處孔モ日支ノ間互ニ歩寄リテ親善關係ニ立歸ル様  
自分モ努力致度キ考ナリト言ヘリ

本會談ハ日英ノ間ニ如何ナル話合ヲ進メ居ルヤ測知シ度キ

考モアリテ本使トノ會談ヲ希望セル筋合モアルヘキモ英側

ヨリ日支關係融和ヲ勸說セラレテ孔モ本使ニ會見シテ見度

キ氣ニナリタルモノカト存セラル將又孔ハ今明日中ニ出發

大陸ニ渡ル由申シ居レルカ起債談ハ英側ニ話ヲシ掛ケタル

カ如キモ起債成立迄ニ至リタル形跡ナシ孔自身モ餘り得意

氣ニモ見受ケラレサリシヲ以テ初メ豫期セル通リニ行カサ

リシモノト思ハレタリ

1043 昭和12年5月29日 在廣東中村總領事より  
佐藤外務大臣宛電報

大鵬灣返還說に關し香港防衛のための中英交涉進行中との情報はあるが右交渉に同湾還付

は含まず英國側は確保希望の由報告

支、上海、北平ニ轉電シ香港ニ暗送セリ

1044 昭和12年6月3日 在中國日高臨時代理大使より  
佐藤外務大臣宛(電報)

廣梅鐵道建設公債は中英公司と中國建設銀公

司が引受けたとの張競立内話について

南 京 6月3日後発  
本 省 6月3日夜着

第三七五號

廣梅鐵道ニ關シ二日張競立カ清水ニ内話スル所ニ依レハ同鐵道建設公債ハ中英公司及中國建設銀公司ニ於テ引受ケ之ヲ擔保トシテ香上銀行ヨリ四千萬元ヲ借入レ鐵道側ニ交付スル仕組トナリ居ル趣ナリ

上海、北平、天津、廣東、香港へ轉電セリ

# 中国鉄道建設と中国建設銀公司との関係に關する張競立説明について

する張競立説明について

南京 6月3日後発

本省 6月3日夜着

第三七七號

1046 昭和12年6月5日 在英國吉田大使より  
広田外務大臣宛(電報)

何トモスヘカラサル狀態ニアリ  
北平、在支各總領事へ轉電セリ

張競立ハ二日清水ニ對シ支那鐵道建設ト中國建設銀公司トノ關係ニ付左ノ通り内話セル趣ナリ(出所極祕)

廣東省ニ於テハ廣梅鐵道其ノ他ノ新線建設ノ爲鐵道部ヨリ一千萬元、廣東省政府ヨリ一千萬元、民間ヨリ三千萬元合計五千萬元ノ資本ヲ以テ廣東省鐵路公司ヲ設立スルコトト

ナリ居ル處今後各地ノ鐵道ハ之ト同様何レモ中央、地方及民間ノ共同ニ成ル鐵路公司ノ手ニ依リ建設經營セラルル筈ニテ從來ノ鐵道國有政策ニ一大變更ヲ來ス譯ナルカ是等鐵路公司ノ創立ニ當リ民間ノ資本ヲ募集スルコトハ名目丈ケニテ實際ハ總テ中國建設銀公司ヨリ出資ヲ仰ク仕組トナリ居ルヲ以テ全國ノ鐵道ハ漸次同公司ノ支配下ニ立ツコトトナリ鐵道部ノ勢力ハ自然薄ラキ鐵道ノ統一管理ニモ少カラス支障ヲ來ス惧アリ張部長モ此ノ形勢ニ對シ内心極メテ憂慮シ居ル次第ナルカ宋子文ノ財界ニ於ケル勢力ニ押サレ如

第三三〇號(極祕)  
一兩日前「トウレジュアリー」ノ「ウエリー」ハ荒川ニ對シ孔祥熙ハ支那幣制改革ノ爲ニ要スル一千萬磅ノ起債方ヲ申出テ「トウレジュアリー」トシテハ之ニ異議ナキモ日本側ノ意見ヲ承知致度シト述ヘタル由ニ付本使ハ「エドワード」ヲシテ「ホレイス、ウイルソン」及「ワーレン、フィツシヤー」ニ就キ英政府ノ眞意ヲ質サシメタルニ支那借款說ニ付テハ實ハ政府ノ意嚮徹底セサリシ爲全ク手違ニテ曩ニハ千五百萬磅借款案ヲ「アジス」ヨリ「コンソルシウム」

ニ申入レ又右一千萬磅借款說モ荒川ニ話出テタル次第ナルモ政府トシテハ今直ニ之ニ同意スル意嚮ナシト明言セリ夫レカアラヌカ五日朝「アジス」ハ加納ニ對シ廣梅鐵道借款ヲ二百七十萬磅ヨリ千五百萬磅ニ増額ノ件ハ英「グループ」ノ提案ニハアラス單ニ孔祥熙ノ希望ニ基ク「プログラム」トシテ借款團ニ申出テタルモノニ過キス了解請フト申越セル趣ナリ

フ  
二、孔當國來訪ノ目的ハ表面儀禮ノ爲ト稱シ居レルモ内密ニ大藏省國立銀行等トモ接觸シ  
(イ)前記借款成立ノ場合工業化ニ要スル白國技師ノ傭聘  
(ロ)長期信用設定ニ依ル鐵道材料購入  
ニ關シ瀕踏ミシタルモノナルカ右(ロ)ノ點ハ借款不成立ノ場合ニ於ケル孔ノ手土產タラシメントスル底意ナルヤニ見受ケラル  
三、孔ハ英米カ右借款ニ應セサル場合ハ蘇聯邦ニ申込ムヘク蘇ニ於テハ萬更成立不可能ニアラサル旨ヲ夫レトナク仄居レルカ右ハ英米ニ對スル一種ノ牽制策ト見ル向アリ尙一行中ノ國際貿易局長郭秉文ハ目下巴里ニ於テ佛國側ト交渉中ナルカ佛財政困難ノ折柄佛カ積極的ニ乗出シ得

1047 昭和12年6月12日 在ベルギー來栖(三郎)大使より  
広田外務大臣宛(電報)

対英借款要請など英國等における孔祥熙の動

静に關する關係筋よりの内話情報報告

ブリュッセル 6月12日後發

本省 6月13日前着

第八七號(極秘)

本月六日孔祥熙一行當地來着、二日滯在ノ後伯林ニ赴キタルカ右ニ關シ當地萬國商事院事務總長カ信スヘキ筋ヨリノ聞込トシテ内話セル所左ノ通り  
一、孔一行訪英ノ眞ノ目的ハ支那工業化五年計畫ニ要スル邦

ルヤ疑問ナリ

以上聞込ノ儘

1048

昭和12年6月23日 在英國吉田大使より

廣田外務大臣宛(電報)

中国幣制安定のための英中借款計画に関する  
英國政府覚書について

別電 昭和十二年六月二十三日発在英國吉田大使より  
廣田外務大臣宛第三八〇号

右英國政府覚書

ロンドン 6月23日後発

本省 6月24日前着

第三七九號(極祕)

廿一日「カドガン」ノ求ニ依リ往訪「カ」ヨリ別電第三八

○號要領覺書ヲ手交シ本件ハ米、佛ニモ内報ノ豫定ナルカ  
借款金額ハ孔祥熙ヨリ一千萬磅申出アリタルモ目下一千萬  
磅ニ對シ英政府ヨリ前記覺書ノ諸條件ヲ申入レ居レリ又右  
借款條件トシテ支那海關制度ノ維持強化、外國海關官吏ノ  
增員及D・I・G・ノ地位ヲ日本側ニ與フルコトヲ孔ニ對

(別電)

ロンドン 6月23日後発

本省 6月24日前着

第三八〇號(極祕拔)

一、孔祥熙ハ最近訪英ノ際支那幣制公債發行方提案セリ本件  
討議ハ未夕初期(still on an early stage)ニ屬スルモ英國政  
府ハ此ノ種問題ニ付テハ主要關係國間ニ協議ヲ要望スル  
カ故ニ本件經過ヲ茲ニ日本政府ニ内密通報ス

二、英政府ハ孔ノ提案ニ好意的考慮ヲ拂ハントス但シ右ハ支

シ申入レ居レリ尤モD・I・G・ニ關シテハ貴方ニ丈ケ御

話スルモノナリ終ニ往電第二三六號借款團解散提議ニ對シ  
速ニ日本政府ノ回答ヲ希望スト述ヘタルヲ以テ本使ヨリ本  
件幣制借款ニ付テハ覺書ヲ熟讀ノ上更メテ申添フヘキ點ア  
ルヘク借款團解散ニ付テハ曩ニモ申述ヘタル通り且下ノ日  
英一般國交調整問題ト併セテ考慮スルコト穩當ナルヘク帝  
國政府ニ於テモ恐ラク同様ノ考慮ヨリ今尙回答シ來ラサル  
モノナルヘシト述ヘタル處「カ」ハ一般交渉ト借款團問題  
トハ切離シテ考ヘラレ度シト言ヘリ

那幣制ノ安泰維持ト同國健全財政政策ノ爲ノ充分ナル實  
行計畫ヲ條件トス英國政府ハ本計畫ノ遂行カ支那ニ利益  
ニシテ且支那ト通商シ支那ノ經濟開發ニ協力セントスル  
列國ノ利益トナルヘキヲ信スルモノナリ

三、英政府ハ獨立且 Non-political ナル中央準備銀行(以下中  
銀ト言フ)ノ設立ヲ重要視ス支那政府モ主義上之ヲ認メ  
居レリ英政府ハ同銀行ニ關スル満足スヘキ條例ノ實施ヲ  
幣制公債發行ノ前提條件トス

四、本計畫ハ借款收入使途ニ付テモ規定セントスルモノニシ  
テ支那政府ハ之ニ依リ得タル磅收入ヲ中銀ニ賣却シ中銀  
ハ之ヲ專ラ幣制維持ノ爲ノ爲替取引ニ使用スヘク政府ハ  
中銀ヨリ得タル支那弗貨ヲ政府豫算ニ流用スルコトナク  
政府ノ國內市場ニ於ケル信用增加ノ爲必要ナル内國債償  
還ノ爲一定期間ニ漸次充當スルモノトス尙本計畫ハ政府  
豫算ノ均衡政策ヲモ遂行スルモノトス

五、<sup>(2)</sup> 紛上ノ「ライン」ニ依ル本計畫實行ノ一部トシ英政府ハ  
本公債案ニ好意ヲ有シ同時ニ日本其ノ他關係國政府ヨリ  
ノ同情の考慮ヲ願フモノナリ尤モ倫敦市場ニ於ケル本件  
起債ノ成否及起債條件ニ付テハ政府ハ意見ヲ開陳シ得ス

右ハ一二關係金融機關トノ交渉ニ俟ツヘキヲ明カニシタ  
リ

六、孔ヨリ海關收入擔保ノ提議アリタルニ對シ英政府ハ現行  
海關制度ノ維持並ニ海關外國職員補充ノ重要性ヲ強調セ  
リ

七、金融機關トノ詰合ハ未夕初期ニ屬シ例ヘハ一千萬磅以下  
ノ公債ニ對スル適當ナル擔保ニ付テモ未夕支那政府ニ於  
テ提議スル迄ニ至ラサルカ如シ(金額ハ假ニ一千萬磅以  
上ノ場合ニ於テモ先以テ一千萬磅ニ付發行セラルヘシ)  
目下此ノ點討議繼續中ナリ

八、右討議纏マルニ於テハ孔ハ本年秋本公債發行ヲ希望セリ  
而シテ之ニ關聯シテ當然考慮セラルヘキ借款團問題ニ關  
シ既ニ米國政府ハ解散ニ贊成ヲ表シ居ルニモ顧ミ英政府  
ハ此ノ際日佛兩政府ノ回答近カラムコトヲ望ムト共ニス  
クシテ借款團ノ正式決定ニ依ルコトナクシテ本年秋迄ニ  
同團解散セラルヘキヲ期待スルモノナリ素ヨリ英政府ハ  
今後其關係三國間ニ緊密ナル聯絡ヲ保持セントスルモノ  
ナリ然レトモ若シ秋迄ニ解散セラレサルニ於テハ之ニ代  
ルモノトシテ英政府ハ日本政府カ紛上ノ計畫ノ一部タル

幣制公債ノ倫敦市場發行ニ對シ日本「グループ」カ贊成  
スヘキ様盡力セラレンコトヲ希望スルモノナリ

~~~~~

1049 昭和12年6月28日 在英國吉田大使より 広田外務大臣宛(電報)

中国問題等をめぐる日英関係調整交渉でのわ

が方提案振りにつき請訓

ロンドン 6月28日前発
本省 6月28日夜着

第三九六號(館長符號)

(貴電第二三九號御來訓ニ接シ卒直ニ所感ヲ述フレハ甚夕失望ノ情禁スル能ハ斯然レトモ貴電第二五〇號ニ依リ御苦心ノ邊モ承知シ熟考ノ後再應卑見上申ス
一、先ツ東京及南京來電ニ付テ考フルニ英側ノ意図ニ付本使ノ了解トハ相當ノ間隔アリ日英接近ニ付テハ本使來任前ヨリ英側一部ニ熱心ナル主張者アリ本使來任ヲ待構ヘタル如クニ彼等ハ進シテ本使ニ本件ヲ取上ケテ英國側ニ開談スヘキヲ慾憤シ爾來本使ヲ督勵シ援護シ^(援)内面ニ於テ百方委員會ノ成立ヲ促進セシメツツアリシハ御承知ノ通り

ノ政治的中心ヨリスレハ重視セラレサル所ナリ

四、英本國ニ於テ我對支政策ニ對スル非難昨今漸ク減シタルモ内心疑惑ヲ懷ク者ハ今尙少カラサルヘシ將又支那ニ抗日思想横溢ノ今日英カ對支關係ニ於テ日英提携ヲ策スルニ當リテハ之ヲ主張シ得ヘキ相當ノ論據ヲ必要トスヘク消極的ニハ支那主權尊重、積極的ニハ繁榮協力ヲ掲クルノ必要アルヘキハ既電ノ如シ

(3) 主權尊重ノ不可ナレハ切メテ繁榮協力ヲ明示セラレサルヘカラス空虚ノ文字ヲ用ユルニ努メテ遂ニ無意義ノ提携ヲ提議スルカ如キコトアラハ徒ニ英ヲシテ我ニ對スル信賴ノ念ヲ薄カラシムルニ終ルヘシ

五、英國識者中支那ノ實情ニ通スル者ハ意外ニ多シ偶々日本ノ對支政策ニ對スル疑心ヨリ支那ニ好意ヲ寄スル者ト雖直ニ支那信賴スヘシトハ爲サヌ假ニ英カ我ヲ出シ抜キ若クハ無視シテ對支投資スルコトアリトスルモ支那ノ安定統一ノ完成ハ容易ノ業ニアラス南京政^(府)一時ノ英ノ融資ヲ得ルノ結果ハ地方政權ノ分崩取運動トナリ内争及内亂ヲ激成シ遂ニ英モ其ノ渦中ニ捲込マレ往年ノ上海香港排英運動再來ノ因ヲ成スニ至ルナキモ保セス投資ノ増大ハ

ナリ是素ヨリ其ノ私情ニ出ツルニアラス日英接近カ英國策上有利ト信スルカ故ニシテ紛糾錯雜ノ歐洲政情ヲ知ル者ニ於テハ其ノ眞意了解ニ苦シマサルヘシ

三、歐洲政情ノ紛糾ハ遂ニ英ヲシテ十五億磅國防案ヲ決セシメタリト雖一朝變ニ臨ミ印度以東ノ英ノ權益擁護ノ困難ヲ思ヘハ日英同盟舊時ニ想到シ日英提携ノ利益ニ考及フ

ハ常識トシテ英側ノ眞意甚夕明瞭ナリ

三、支那ニ於ケル抗日思潮ノ橫溢ヲ目前ニ見ユル英國出先官吏中自然對支政策上日本接近ノ愚ヲ説ク者モアルヘシ支

那政府側ニ於テモ抗日ノ目的ノ爲ニ殊更ニ英支親交ヲ誇張スル者モアルヘシ然レトモ英人ニシテ支那ヲ以テrotten若クハ mysteriousト爲スモノ本使自ラ之ヲ耳ニセルコトモ再三ナラス支那ノ既往現在ヲ知ル英人識者ハ眞面目ニ能ク支那ヲ信賴シ得ヘシト確信シ若クハ支那政治家ニモ英國ノ信賴ヲ得ヘント自信シ居ル者幾何アルヘキヤ況ヤ英ノ常ニ主張スル世界ノ平和ニ支那カ貢獻シ得ヘキ實力アリトハ御世辭ニモ言ヘサルヘク英國政治家カ其ノ世界政策的見地ヨリ日本ヲ重視スヘキコトモ亦常識ト言フヘク出先官吏若ハ一部事務當局ノ新支那論ハ英國

危險ノ増大ナリ我ハ徒ニ英ノ投資ヲ嫉視スルヲ要セス投資大ニシテ英カ支那ニ深入リスレハ夫レ丈ヶ英ノ我ニ依頼セサルヘカラサル恒算大ナルヘク是經驗ニ富メル英人ノ容易ニ對支借款談ニ應セサル所以ナリ

六、⁽⁴⁾ 北支事態ハ滿洲熱河事變ノ附隨事態ニ過キス支那カ卒直ニ滿洲熱河ノ既成事實ヲ認メテ其ノ善後處分ニ關スル我交渉ニ應スレハ北支問題ハ自然解消スヘキ論理ナリ而シテ滿洲熱河ノ現狀既成事實ノ現存スルニ拘ラス其ノ善後處分ニ應セサル以上北支事態ノ今日アルハ當然ニシテ其ノ責支那ニアリトノ態度ニ於テ英其ノ他ニ臨ムヘク他面北支事態モ亦過^(去)數年我ノ努力ニ於テ築キ上ケタル一既成事實ナルヲ以テ支那ニ對シテハ此ノ事態ヲ對支要求ノ一武器トシテ我正當ナル要求達成ニ利用スヘク

(5) 之ヲ要スルニ北支事態ハ對支關係ニシテ日英間ノ問題ニアラス日英交渉ニ於テ日支關係打開ニ英ヲ如何ニ利用スヘキヤノ問題アルノミ

七、以上ノ考察ヨリ貴電御訓令ノ趣旨ニ副フ様往電第二九八號拙案ハ其ノ冒頭(一)ノ(A)中主權尊重ニ關スル文字ヲ削除シ(B)ノ次ニ來ル(1) in Connection with (a) the Japanese

(Categorically *)
Government Categorically affirm [H]各ノ項中ニ領土的野心

ナキ意味合ヲ更ニ明カニスル様修正スヘシ既電ノ通り拙

案ハ貴電特第八號ノ御趣旨ヲ體シ「フヰツシヤー」等ノ

意見ヲ取入レタルモノニ付右拙案ナレハ彼等ノ内面的支

持ヲ得ル利益モアリ依テ以上右ノ修正ヲ加ヘ枉ケテ右拙

案ニ付再應御詮議ヲ切望ス

ハ、通商問題ニ付テハ貴電特第八號御訓電中具體案内示ノ點

少カリシヲ以テ卑見申出テタルモ本件交渉ノ冒頭ニ於テ

ハ一應拙案ノ程度ニ止メ貴電第二四一號御訓電ノ趣旨ヲ

含ミテ漸次ニ歩ヲ進ムルコトト致度シ

1050 昭和12年6月30日 在アルゼンチン寺嶋(広文)臨時代理公

使より
広田外務大臣宛(電報)

中国問題等をめぐる日英関係調整交渉に関する

るロンドン発U.P.電につき報告

ブエノスアイレス 6月30日後発

本 省 7月1日前着

* 第八二號

貴電第五三號ニ關シ(日英會談ニ關スル倫敦發「ユーピー」電ニ關スル件)
「イーデン」外相ハ吉田大使ト支那問題調整ノ爲近ク會談ヲ開始スヘキ處吉田大使ト「カドガソ」次官トノ間ノ會談ヲ基礎トスヘク日本側ハ左ノ諸點ヲ提案スヘシ

(一)英國ハ(イ)支那ニ於ケル日本ノ特殊地位(北支那ニ於ケル通商經濟的優越的地位ヲ認メ

(二)日本ハ(イ)北支ニ於ケル領土的野心ヲ拠棄シ(中、南支ニ於ケル英國ノ優越的地位ヲ認ム

(三)日英對支借款但シ米國ヲ含ム列國ノ參加ヲ勧誘ス

(四)列強外交代表ノ滿洲駐在ハ日本ノ對滿政策實行上障礙トナルヘキニ付日本ハ四、五箇年滿洲國ノ承認ヲ要求セス

尙日本ハ一九三六年倫敦條約ニ署名シ十四時砲制限ヲ受諾スヘシ本提議ハ「北支ニ於テ英國ハ日本ニ白紙ヲ、日

本ハ中、南支ニ於テ英國ニ白紙ヲ與フ」トノ東京發報道ニ比シ妥協的ナルモ英國トシテハ本提案受諾ニ難色アル

ヘク本會談ハ更ニ支那ニ於ケル經濟問題ニモ及フト同時ニ印度馬來ヲ主トスル綿製品ヲ含ム日英品ノ販路ニ關ス

ル暫定取極ニモ及フヘク門野一行ノ渡英ハ右ヲ裏書スルモノナリ

1051 昭和12年7月5日 在中國川越大使より
広田外務大臣宛(電報)

中國幣制安定のための英中借款計画への対処

振りにつき請訓

別 電 昭和十二年七月五日発在中国川越大使より広

田外務大臣宛第四七九號

右借款計画へのわが方參加方意見眞申

南京 7月5日後発

本 省 7月6日前着

第四七八號(極祕、館長符號板)

英發貴大臣宛電報第三七九號ニ關シ

本件借款ハ昭和九年未以來英支間ニ行ハレタル話合ノ結果ニシテ諸般ノ情勢ハ曩ノ「リースロス」來支當時ト異リ英

國トシテモ今度ハ之カ成立ヲ眞面目ニ期待シ居リ場合ニ依

リテハ日本側ノ意嚮ニ頓着セス一路實現ニ邁進ノ決意ナル

ヤニ判斷セラレ旁々我方ニ於テ多少難色ヲ示ス位ニテ本件

(別 電)

南京 7月5日後発

本 省 7月6日前着

第四七九號(極祕、館長符號板)

一、本件借款ハ曩ノ「リースロス」借款案ノ蒸返ナルモ我方

ニ事前ニ協議シ來レル點、借款ノ使途等ニ付テモ我方ノ意見ヲ考慮ニ入レ居ル點等ヨリ見テ形式的ニ之ニ反対スルコト相當困難ナルノミナラス諸般ノ情勢ハ當時ト異リ英支限リノ問題トシテ實現性大ナリ蓋シ支那ハ英國側ノ要請ニ從ヒ對英借款ノ整理ヲ略終了シ更ニ中央銀行ノ獨立化ニ付テモ殆ト英國側希望ヲ取入レントスル狀況ニアリ英國トシテモ右支那側ノ實績ニ鑑ミ茲ニ若干支那ニ對シ實質的ノ援助ヲ與フルコト適當ト認メ居ルモノノ如ク他面投資市場トシテノ支那ノ地位カ向⁽¹⁾上シ來レリトハ言ヘ財政幣制ノ基礎ハ仔細ニ點檢スレハ表面ノ平靜ナルニ反シ存外薄弱ニシテ

唯英國側カ必要ニ應シ救援ノ手ヲ打ツヘシトノ信念カ幣制ノ破綻乃至ハ弱點ノ暴露ヲ防キ得ル程度ニ過キサルカ實體ナル如ク右真相ハ外部ヨリ捕捉ニ困難ナルモ英國側ノ委員ハ之ヲ知悉シ居ルモノナルヘク即チ既ニ今日迄支那幣制ニ深入リシ來レル英國トシテハ茲ニ一石ヲ投シ以テ幣制ノ補強ヲ實行スル必要ヲ痛感シ居ルモノト認メラル而シテ英國側ハ其ノ嘗テ最モ警戒セル日本側ノ反対進ンテハ破壊工作ハ支那ニ於ケル過去一年半ノ日本ノ實績

(二)局外ニ在リテ右ノ成立ヲ妨害スルカ
(三)我方ノ參加ヲ主張スルカ
ノ三途ヲ出テサルヘシ

然ルニ

(一)ハ支那ノ金融否支那自體ノ英國(乃至ハ國際)管理化ヲ意味スルモノニシテ假ニ我方カ右同意ノ代價トシテ支那ヲ分割シ北支ヲ實質上日本ノ勢力範囲トスル如キ了解ヲ英國ヨリ取付クルヲ得タリトスルモ我永續的對支政策トシテ斯ノ如キ「バーゲン」ハ絕對ニ執ルヘカラサル所ナルハ申ス迄モナク況ンヤ英國カ右ノ如キ取引ニ應スル筈モナキヨ以テ我方ノ獲得シ得ヘキ代價ハ精々海關人事問題(英發大臣宛電報第三七九號)、北支鐵道、礦山投資ニ對スル了解乃至ハ好意的支持ニ限定セラルヘク旁本件對策ハ一顧ノ價值タニカルヘシ

(五)ニ付テハ我國際情勢ヨリ見テ少クトモ茲當分ハ直接間接支那ヲ破壊シ乃至ハ之ニ痛擊ヲ加フル程度ノ實力ヲ支那ニ用フルコト至難ニシテ又實際問題トシテモ支那幣制破壞ヲ直接目的トスル兵力使用ノ如キハ言フヘクシテ容易ニ行ハルモノニアラス更ニ單純ナル威嚇ヲ

即チ北支工作ノ進度、特殊貿易ノ近況等ニ鑑ミ最早左シテ心配スルニ當ラサルモノト判斷シ又日本ノ對支政策ノ緩和ハ兒玉經濟視察團ノ派遣、倫敦日英會談等ニ依リ先ツ間違ナカルヘシト睨ミ居ルモノト推測セラル

從⁽³⁾テ前記英支關係ノ近況換言スレハ本件借款供與ノ緊急性並ニ右日支、日英關係ノ現狀即チ日本ノ對支壓力ノ低下ノニノ事情ニ基キ今次英國ノ態度ハ極メテ强硬ナルモノト豫想セラルアリ我方一片ノ反對表示位ニテ本件ノ實現ヲ阻止シ得ルモノト多寡ヲ括ル如キハ甚⁽²⁾危險ト言ハサルヘカラス(昭和十年二月二十五日附在東京英國大使覺書ノ借款案乃至ハ「リースロス」借款案カ成立セサリシハ英國側ニ於テ我方ノ主張ヲ尤モト認メタルカ爲ニアラス英國側カ日本ノ北支工作ノ進展ヲ危惧シ支那ノ誠意、實力殊ニ新幣制ノ運用ニ付未タ信賴ヲ置カサリシカ爲ニテ要スルニ客觀的情勢カ尙投資ニ熟シ居ラサリシコトカ理由ナリ)

二、右判断ノ下ニ我方對策ヲ攻究スルニ

(一)局外ニ在リテ英國單獨ノ(若クハ日本ヲ除ク)國際借款團ノ借款成立ニ同意ヲ與フルカ

第三三〇號荒川情報ノ次第ハアルモ

英國側ノ眞意カ單獨借款ニアルコト曩ノ廣梅鐵道ト同様ト見ルヘク「リースロス」借款案ト異リ「カドガン」、「ホールパツチ」ハ何レモ我方ノ參加方希望ヲ披瀝シ居ラスニハ絶對反對ナル旨率直ニ述ヘ借款團規約ニ基ク形式論ヲ離ルモ此ノ種重要ナル Non-industrial enterprise loan ハ之ヲ日英及必要アラハ關係國ノ共同事業トスル建前ヲ先ツ認メシムルコトニ極力努ムヘキ儀ナリ而シテ一旦右原則ヲ認メシメタル上ハ借款金額條件等ニ付テモ必シモ從來英支間ノ話合ニ拘泥セス新ニ關係國間ニ充分ニ協議方主張シ依テ以テ我方要求ヲ容レタル借款トシテ成立セシムルカ然ラサレハ支那側ノ應諾シ難キ條件ヲ提出シ之カ成立ヲ阻止スル如ク策スルモ可ナルヘシ

三、⁽⁸⁾前記ノ如ク此ノ際我方ノ執ルヘキ政策ハ共同事業トスル

コトヲ主張スル以外ニナカルヘキ處右ニ付テハ前記ノ如ク英支双方ニ困難アルヘキ外我國內情勢上二ノ難點ヲ豫想セラル

(一)英國ノ首唱ノ下ニ我カ對支共同借款ニ參加スル如キハ

分ナルコトハ威信上並ニ英國ト均等ナル發言權ヲ持ツ爲必要ナルハ勿論トス)本件ハ現在及將來我對支政策上ノ絕對的必要ナル支出ナレハ如何ナル苦境ニアリトモ是非共國策トシテ本件支出ヲ肯セラルコト致度シ

本件資金ノ捻出ニ付テハ素ヨリ財務當局ノ裁量ニ從フ

外ナキモ投資ノ安全性ニ付テハ先ツ問題ナカルヘク

(借款ノ結果幣制ノ安定ヲ見ルハ我方トシテ希望スル所ナルカ本件借款手取カ他ノ目的ニ流用セラル如キ場合ニ於テモ支那ニ對スル我方ノ壓力ヲ増シ政治上不可ナラス)唯本邦市場ノ消化力(内債トノ關係)ニ係ルモノト思ハルモ右ニ付テハ政府保障ノ下ニ我在支紡績利益金ノ出資ヲ促ス等ノ方法モアルヘキヤニ認メラレ又日英會談ノ進展如何ニ依リ別途我爲替資金充實等ノ爲英國ノ協力ヲ求ムル如キモ一見矛盾ニ似タルモ實ハ借款團規約ニ於テモ代理發行ヲ豫想シ居ル次第ニアリ少シモ差支ナキ様思惟セラル

右國內上ノ困難ハ多大ト認メラルモ一方英國ニ對シテハ共同事業ノ建前ヲ認メシムル如ク速ニ手ヲ打ツコト極メテ

滿洲事變以來我堅持シ來レル對支根本方針ノ急轉回ト

モ言ヒ得ラルルヲ以テ行懸上種々ノ反對ヲ捲起スヘキ處右ハ感情論トシテ首肯シ得ラレサルニハアラサルモ前記ハノ如キ情勢判斷ノ下ニ於テハ我方カ英國單獨ノ借款成立ヲ有效ニ阻止シ得ルノ途ハ遺憾乍ラ此ノ參加ノ決心ノ下ニ共同事業ト爲スコトヲ飽ク迄主張スル以外ニナク且右ハ英國乃至ハ英支ノ希望スル如キ借款ノ成立ヲ打破スル目的ニ出テ

對支國際共同借款ノ成立自體ヲ目的トスルモノニアラ

サル所以(即チ我方ニ不利ナルモノヲ壞サンカ爲ニ)口乘ルコトヲ主張スルト言フ説明ニテ可ナリ)ヲ懇示スレハ了解ヲ取付クルコト至難ニアラサルヘシ且又假ニ成立ノ曉ニ於テモ英支馴合ヲ防ク爲ニ積極的ニ參加シテ監視ノ眼ヲ怠ラサルコト必要ナルハ言ヲ俟タス我方ノ監視行屆ク場合ニ於テハ支那ノ國際管理ヲ危惧スルノ要ナシ

(二)最大ノ難點ハ寧ロ我財政上ノ負擔力如何ナルヘキ處(我方トシテハ米佛ノ參加ナキコトヲ豫想シ英國ト折半即チ約八千五百萬圓ヲ負擔ノ覺悟ヲ要ス尙英國ト均

肝要ナルニ付テハ至急右御手配アランコト切望ニ堪ヘス
~~~~~

1052 昭和12年7月6日 在中國川越大使より

廣田外務大臣宛(電報)

## 英中借款計劃へのわが方対応策に關する補足

説明について

南京 7月6日後発  
本省 7月6日後着

第四八〇號(極祕、館長符號板)

往電第四七九號ニ關シ

右往電ハノ(三)ニ所謂關係國ノ共同事業ト借款團トノ關係ニ付テ左ノ通り補足説明申進ス

右共同事業ノ建前ニ對シテハ米佛等モ實際ノ參加ハ別トシ同感ナルコトハ略豫想ニ難カラス英國モ主義上之ヲ拒否シ得サル立場ニアリ唯借款團ノ事業トスルコトニ對シテハ支那ノ反對アリトノ形式ニ出テ來ルヘキモ右ニ對シテハ本件ハ借款團ノ事業トセス關係國ノ合意ニ基ク特殊事業トシテ取扱フコトヲ得ル次第ニテ必シモ支那ノ希望「借款團」ノ名稱ヲ用ユル必要ハナキナリ(右ハ法理論トシテ至當ナル)

ノミナラス去ル五月六日借款團會議採擇ノ決議ハ一國團體

單獨引受ノ例ヲ認メタルモノナルモ其ノ趣旨ハ關係國團體

カ必シモ規約ニ拘泥セス實際便法ヲ案出スルニアリ依テ

逆ニ借款團ノ事業ト爲スヘキモノヲ關係國ノ共同事業ト爲

スコトモ同一ノ精神ニ依リ當然行ハルヘキ所ナリ)尙借款

團解消問題ハ右ノ如ク此ノ際決定ノ必要ナキニ付本件借款

成否見据付ク迄之ヲ取上ケサルコトヲ主張スヘキモノト思

考ス(英國トシテハ何時ニテモ單獨借款ヲ爲シ得ンカ爲先

ツ解消シテ自由ナル立場ヲ獲得シ置カントノ考ナルヲ以テ

我方ハ共同事業トスル目標ノ下ニ暫ク右ノ形式的根據タル

規約ハ之ヲ生カシ置クコト適當ト存ス)

冒頭往電ノ通り轉電セリ

1053

昭和12年7月7日

在英國吉田大使より  
広田外務大臣宛(電報)

中國問題等をめぐる日英關係調整交渉でのわ

が方提案振りにつき再考方請訓

ロンドン 7月7日前發

本 省 7月7日後着

ル  
三、通商問題ニ於テモ先ツ日英協議ノ不可能ヲ確信シテノ貴  
案ナルカ如ク(數文字分脱)ノ協定ノ如キハ本使ノ力及フ所ニ  
アラス

四、卑見ヲ以テ斯レハ日支關係ノ局面打開ハ日英協力主義ヲ

善用シ支那カ資金ニ窮シテ借款運動ニ狂奔スルニ乘シ先

ツ其ノ糧道ヲ斷チ英ヲシテ日支關係改善セサル限り對支

借款ニ應シ難シトノ建前ヲ執ラシメ度シト存スル處貴電

合第四四七號ニ依レハ對支關係ニ於テハ當分主トシテ經

濟及文化提携ノ方針ヲ以テ進マル御方針ト承レルモ日

英關係ヲ御利用相成ル御考モナキモノノ如シ是レノ失望

禁スル能ハスト爲ス所ナリ

五、國費膨脹、歲出倍加ノ今日我國運維持ノ爲ニハ通商貿易

(ヲ)倍加セシメ百億臺ニハ是非共上セサルヘカラサル處

世界四分ノ一ノ國土ヲ占有スル英帝國ト世界人口四分ノ

一ヲ包有スル支那ヲ敵視シ若クハ除外シテ我通商發展ヲ

考フル能ハス當今ノ時局ニ於テハ對英、對支關係善處ノ

爲ニ拙案ニ付テハ更ニ充分御考量ヲ仰度シ

六、貴電ニハ幸ニシテ大體ノ趣旨拙案ト大差ナシトアリ而シ

\*第四二六號(館長符號板)

貴電第二五八號ニ關シ

段々御懇謝有難ク拜承ノ處御訓令執行前ニ篤ト御意趣ノ存  
スル點確ト承知致置度シ

一、往電特第一五號末段及第三九四號等ニテ明カナルカ如ク

英ノ求ムル所ハ帝國政府ノ意嚮説明ニアラシシテ日英國

交調整ノ *definite (or concrete) proposal* ナリ是レ本使前

電英國側ノ氣分ニ符合セスト言フ所以ナリ將又帝國政府

ノ政策ハ之ヲ問ハルモ場合ニ依リテハ答ヘサルモ可ナ

ルヘク況シヤ問ハレサルニ我ヨリ説明、辨明ヲ加フルカ

如キハ我帝國ノ名譽ノ爲ニ本使ノ敢テ爲ス能ハサル所ナ

リ

三、日英國交調整ニ依リテ我ハ何ヲ得ント欲スルヤ貴電御趣

旨本使ニ於テハ充分ノ了解認識ヲ缺クノ惧アリ支那政策

ニ於テハ單ニ北支、借款、海關ニ關シ日英協力ヲ求ムル

丈ケノ事務的意味ナリヤ

果シテ然ラハ敢テ國交調整ト迄言ハサルモ南京及東京ニ

於テノ御話合ニテ事足ルヘク貴案ヲ以テセハ英國政府ハ

甚夕聲ノ大ニシテ其ノ實ノ小ナルニ驚クナラント存セラ

1054

昭和12年7月7日

在天津堀内總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

テ英ノ求ムル所ハ具體案ノ提示ナルコト前陳ノ如シ貴案  
一應提示後拙案ヲ我提案トシテ英側ニ提案シテ可ナリヤ  
將又拙案ヲ提案トシ貴案ハ其ノ説明ナリトシテ英政府ニ  
提示シテ可ナリヤ

英中借款計畫に対しても直接反撃はせず日英

關係調整に利用すべきなど支那駐屯軍より陸

軍中央へ対応策具申について

付記一 昭和十二年八月一日着在ニューヨーク若杉總

領事より広田外務大臣宛電報特情紐育第一二

右鉄道借款など最近成立の對中借款報告

英中間に七百万ポンド鐵道借款成立の報道報告

二 昭和十二年九月三日發在英國吉田大使より広

田外務大臣宛電報第六三八号

## 第三七五號

英支幣制借款ニ關シ軍側ニテハ五日電報ヲ以テ「本件ハ幣制改革當時ヨリ豫想セラレタルモノニシテ其ノ當時我方ハ

之ニ反対シタルモ其ノ後所有銀引渡等ニ依リ幣制自體ニ對スル我方ノ立場モ漸次變更セラレタルノミナラス今次ノ借款ニ我方カ反対スルモ英國ハ之ヲ强行スルニアラスヤト思ハルルニ付此ノ際我方トシテ之ニ直接反撃ヲ加フルコトハ

差控ヘ寧口此ノ機ニ日英調整ノ具體的工作即チ北支ノ特殊地位ニ關スル認識又ハ了解ヲ深ムルコトニ利用シ又幣制自體ニ對シテハ此ノ際我方モ之ヲ支持スル態度ヲ明確ニシ且將來法幣統一ノ方法如何ニ依リテハ北支ノ金融ヲ梗塞スル惧アル點ニ付テ我方ノ關心ヲ印象シ置クコト最善ト認ム」

トノ趣旨ノ意見ヲ上申セリ

御承知ノコトトハ存スルモ爲念  
尙軍側ニテハ中央準備銀行ニ對スル日本ノ協力ノ意思ヲ明白ニシ之ニ關與スル方策ヲ講スヘントノ意見ナルカ此ノ點ハ軍トシテ上申スルコトハ差控ヘタル次第ナル趣ナリ

支、上海、北平へ轉電セリ

## (付記一)

ニューヨーク  
本省 8月1日前着

特情 紐育第一二九號

三十一日ノ「ニューヨーク・タイムス」紙ハ倫敦發特電トシテ對支七百萬磅鐵道借款成立ノ報道ヲ掲載左ノ如ク述ヘテ居ル

「二十日支那政府ト中英公司(上海「チャイナ・ファインанс・コーポレーション」ト關係アリ)トノ間ニ五分利附七百萬磅鐵道借款カ成立シタ第一回三百萬磅ハ倫敦ニ於テ近ク公募サルヘク石灘カラ廣東省梅縣ヘノ鐵道建設ニ使用サレル豫定テ第二回四百萬磅ハ浦口カラ湖北省襄陽ヘノ鐵道建設ニ使用サレル豫定テアル擔保ハ同鐵道カラノ收益及塩稅テアルト言ハレル」

(付記二)  
ロンドン 9月3日後發  
本省 9月4日前着

## 第六二八號(極秘)

第一、貴電財第五一號ニ關シ當方調査ノ結果左ノ通り  
一、英國

(イ)廣梅鐵道借款金額三五百萬磅  
四國借款團承認濟々七月三十日孔財政部長ト British and Chinese Corporation 間ニ調印濟  
(ロ)浦信鐵道借款金額四百萬磅  
四國借款團承認未濟八月四日孔財政部長ト Chinese Central Railway 及 Chinese Development Finance Corporation(兩社共 British and Chinese Corporation ノ統制會社)トノ間ニ調印濟々尙契約條項中英國側カ四國借款團規約ノ拘束ヲ免カルル迄效果ヲ發生セサル一項アリ

ノ尙(イ)及(ロ)モ日支事件解決セサル限り當地市場ニ於テ公募見込ナシ

〔佛國(往電倫敦第三五號)參照〕

爲替資金信用設定差當リ一億法迄、一億法迄臨時増額  
スルコトヲ得八月九日支那中央銀行ト Lazard Freres

1055 昭和12年7月30日 在英國吉田大使より

広田外務大臣宛(電報)

日本に赴任するクーリギー大使との日中國交  
調整問題等に関する意見交換について

ロンドン 7月30日後発  
本省 7月31日前着

\*  
第五二三號

新任大使「クレイギー」昨二十九日來訪船都合ニテ出發線  
上ヶ八月四日「クインメリー」ニテ「カナダ」經由赴任東  
京着ハ九月三日ノ豫定ト言ヘル後豫テ郭支那大使ヨリ赴任  
前會見ノ申込アリ都合付カサリン爲斷リタルモ更ニ申シ來  
タリタレハ一昨日孔祥熙止宿ノ「ランガム・ホテル」ニテ  
顧維鈞、郭、孔三人ニ面會シ支那側ノ言分ヲ聞ケリ尤モ豫  
テ聞及フ以上新シキ話モナカリシカ今回ノ北支事件ハ甚不  
幸ナル時期ニ生シ折角ノ日英會談ヲ停頓セシメ居ルハ遺憾  
至極ナリ此ノ成行如何アルヘキヤト言ヘルニ付本使ハ支那  
方面最近ノ報告ニ依リテ考フルニ從來久シキノ間南京政府  
ハ日本ノ危險ヲ說キテ抗日ヲ宣傳シ來レル結果支那ノ對日  
感情ハ一層惡化シ來リ政治的融合ハ甚夕困難ナルカニ  
見ヘタリスカル「イレクトリファイ」サレタル空氣ノ下ニ  
今回ノ事件發生ハ寧口或ハ自然ノ爆發トモ見ラレサルニア  
ラス演習トカ發砲ノ前後ト言フカ如キハ枝葉ノ問題ト言フ  
ヘクスカル事態ナリシカ故ニ我在留民ノ保護、過少ナル北

優遇モ更ニ我印象ヲ深カラシメタルヘシト言ヘル處「ク」ハ  
同感ノ意ヲ表シ出來ル丈ケノ努力ヲナス覺悟ナル旨ヲ繰返  
シ居タリ

編注 原文では「ノ注意」が二度繰り返されているが、筆写  
の際の誤りと思われるため削除した。

支駐屯軍安全ノ爲ニ相當ノ兵力増員ヲ必要トシ地方治安ノ  
爲ニ一戰ヲ交ヘテ抗日支那兵一掃ノ已ムヲ得サリシモノア  
リタルヘク願ハクハ之カ將來政治的融合ヲ持來タスヘキ最  
後ノ一戰タランコトヲ希望ス

事變以來支那側ハ我要求ニハ過大ナル政治條項ヲ含ムカ如  
クニ吹聽シ我政府ノ議會聲明ニテ領土的計畫ナキコト明カ  
ニナサルルヤ軍事的要地ヲ占據シテ北支ノ獨立ヲ空名ニナ  
サントスルモノナルヤニ今又宣傳シ居レルカ如シ斯カル計  
畫ノ有無ハ事變一段落後ノ善後處分協議ノ際ニ自然明白ナ  
ルヘシ又南京來報ニ依レハ支那側ハ頻リニ英支親善ヲ吹聽  
シ在支本邦人モ英國側ノ活躍ヲ妄信スルモノノ如シ素ヨリ  
英國政府ノ眞意ハ明白ナリト雖支那側ヘノ同情的言動ハ時  
局ノ迅速ナル收拾ヲ來タス所以ニアラス又日英會談ノ將來  
ニ影響ヲ及ホスコト少カラサルヲ以テ在支英國人側ニ於テ  
充分ノ注意ヲ切望ス云々ノ意見ヲ開陳シ尙此ノ重要ナル時  
機ニ貴大使ノ赴任ハ本使ノ甚夕欣快トスル所ナリ幸ニ日英  
國交調整ノ爲ニ協力ヲ希望スト述へ惟フニ秩父宮殿下ニ對  
スル英國上下ノ歡待ハ貴國ノ友情ノ表徵トシテ好印象ヲ我  
國民ニ與ヘタルヘク今又我經濟使節團ニ對スル英國各地ノ